認定NPO法人 市民セクターよこはま

■ 事業報告 2021 ■

2021年度(2021年4月~2022年3月)



~誰もが自分らしく暮らせるまち~

一人ひとりの市民が主人公として、 幸せと豊かさを実感できる市民社会の実現を目指して...



【2021 年度事業報告書 目次】

◆ 2021 年度を振り返って P 2 ◆ 運営に関する事項(法人総務)
(1) 会員 [会員数・会員総会]P3
(2) 理事会[開催日・議題] P 3
(3) 各団体・行政機関等の委員の受任 ·····P3
(4) 他団体の会員として ······P5
◆ 事業に関する事項
◇ 市民活動支援事業
●横浜市市民協働推進センター運営事業 P 6
●にしく市民活動支援センター運営事業 P 6
●NPO 法人事業化パワーアッププロジェクトの検討 P 6
●連絡会の事業事務局代行 P 7
◇ 市民の目を活かした評価事業 ・ 福祉サービス第三者評価・指定管理者第三者評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
│ ◇ 地域活動支援事業
● まちかどケア(認知症ケア)関連事業 P 8
・ 認知症サポーターキャラバン、認知症カフェ事業、認知症ケア実務者研修・ 認知症関連アプリ開発事業
● よこはま地域づくり大学校 ······ P 12
● ヨコハマ市民まち普請事業 ······ P 15
◇ クロスセクター事業
・ スタディツアー(企業・NPO 編) P 16
• Zoom 講座 ······ P 17
・ 災害復興暮らし応援・みんなのネットワークかながわ ······ P 19

◆ 資料編

2021 年度を振り返って

理事長 中野 しずよ

社会の転換期に合わせた当法人の転換への模索

はじめに

2021年度もコロナ禍は、NPOや地域活動団体に大きな影響を与え、社会における潜在的な課題やニーズも浮き彫りになりました。

一方、大企業を中心にリモートワークが進み、自由になる時間が増えたことで、地域とつながることに意欲のある人々の姿が増えています。当法人が区役所と協働で取り組んでいる地域づくり大学校でも、30~40代を中心に上記に該当する受講者が増えました。

そして、企業は本業で社会的課題の解決を目指す CSV 経営や、SDG s を意識し持続可能な世界を目指すサスティナビリテイ経営に本腰を入れはじめ、協働推進センターへの企業からの相談が格段に増え、社会の転換期を強く実感する年になりました。

主体同士がお互いを高め合っていけるようなプロセスをデザイン

このような中、市民協働推進センターにおいて、さまざまな社会的な課題の解決に向けた議論が進められてきましたが、課題は様々な要素が関連して起きていて、多くの場合その課題の原因は1つではないため、部分の解決はできても、本質的な解決に至るには、なかなか時間がかかることがわかりました。そこで、課題に関係するすべての主体が、課題の相互作用を見極め、俯瞰して社会的課題を捉える視点をもつことを強く意識しながら、中長期に渡り、関係する主体同士がお互いを高め合っていけるようなプロセスをデザインしていくことに努めました。

法人運営変革のステップと事業継承

法人が、新たな時代の要請に応えていくための取組みとして、当法人の役員や職員一人ひとりが、 組織のパーパス(存在目的)について、自身も参画して考える機会を、外部人材の力も借りてつく ることを目ざしましたが、業務に追われ、組織として一体感をもって変革に取り組める状態にはな りませんでした。

現在横浜で活躍している団体の多くが、存在目的の再確認や事業継承という課題を抱えています。 当法人としても、新たな時代の要請に応えていく法人となっていくために、事業継承のステップを 試みましたが、かえってリーダー層との乖離を生む結果となりました。一方、将来の経営層となっ ていく新たな人材の採用を進め、翌年度以降につなげることができました。

運営に関する事項(法人総務)

(1) 会員

● 会員数

2021年3月31日時点:114

【正会員 104】団体 36/個人 68、【準会員 5】団体 1/個人 4、【賛助会員 5】団体 3/個人 2 ↓

2022年3月31日時点:101

【正会員92】団体31/個人61、【準会員4】団体1/個人3、【賛助会員5】団体3/個人2

● 社員総会(会員総会)

日 時:2021年5月24日(火)

会場:市民セクターよこはま事務所(ICHIMATSUスクエア)

参加者:正会員:62名(うち書面表決15名、委任状26名 ※正会員数104名)

第19回 通常総会

※各担当者による事業説明会を実施。

(2) 理事会

● 開催日

2021年:4月27日、6月29日、7月27日、8月31日、9月28日、

10月26日、11月30日、12月23日

2022年:1月25日、2月22日、3月29日

●議 題

総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、横浜市市民活動支援センター事業 にしく市民活動支援センター事業、次年度組織体制、役員人事、職員の採用 等

(3) 各団体・行政機関等の委員の受任

行政や社会へ提言、市民参画の拡大の為、さまざまな団体等の委員を引き受けています。 〔横浜市・健康福祉局〕

- 横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員(中野)
- ・ 横浜市福祉有償移動サービス運営協議会 委員(山野上)

〔横浜市・こども青少年局〕

・ 横浜市親と子のつどいの広場事業選定委員会 委員(中野)

〔横浜市・環境創造局〕

· 横浜市環境活動賞審査委員会委員 委員(鈴木)

〔横浜市文化観光局文化振興課〕

- ・ 横浜市芸能センター (横浜にぎわい座) 指定管理者選定評価委員 (加世田)
- 横浜市陶芸センター指定管理者選定評価委員(加世田)
- 横浜市民ギャラリーあざみ野指定管理者選定評価委員(加世田)

〔横浜市社会福祉協議会〕

- ・ 横浜市社会福祉協議会よこはまふれあい助成金運営委員会 委員(吉原)
- ・ 横浜市社会福祉協議会「福祉よこはま」編集委員(山田)
- ・ 横浜市社会福祉協議会福祉ボランティア・市民活動部会 委員(中野)

【県域・市域】

- ・ 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 理事(中野)
- · NPO 法人横浜移動サービス協議会 監事(中野)
- 神奈川県かながわ協働推進協議会委員(吉原)
- · 横浜市男女共同参画推進協会 2021 年度公募型男女協働参画事業選考委員(加世田)
- ・ 神奈川県福祉子ども未来局共生社会推進課 支え合い仕組みづくり事業審査選考委員 (加世田)
- ・ 公益財団法人アイネット地域振興財団 審査員座長(吉原)

【区域】

- · 瀬谷区地域福祉保健計画懇談会委員(中野)
- ・ 港南区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員(中野)
- · 港南区福祉活動拠点指定管理者選定委員会 委員(中野)
- ・ 青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員(中野)
- · 青葉区福祉活動拠点指定管理者選定委員会 委員(中野)
- ・ 青葉区地区センター指定管理者選定委員会 委員(中野)
- 横浜市ユートピア青葉指定管理者選定委員会 委員(中野)
- · 栄区地域福祉保健推進会議委員(竹谷)
- · 神奈川県教育委員会学校運営協議会委員(栄高校)(竹谷)

[講師等の受任]

【市域】

- ・ 区支援センターネットワーク会議連続3回 講師・ファシリテーター (吉原)
- ・ 青葉区区民活動支援センター Zoom 研修 講師 (薄井・佐藤)
- ・ さかえ区民活動センター Zoom 研修 講師(佐藤・田中)
- · 山内図書館 Zoom研修 講師(佐藤・細井)
- ・ みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ Zoom 研修 資料作成(佐藤)
- ・ 鶴見区団体交流会 コーディネーター (吉原)

(4) 他団体の会員として

下記の団体に会員として参画しました。

- · 認定 NPO 法人 日本 NPO センター
- ・ 一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク
- ・ 公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会
- · 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
- · NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター
- · 神奈川県居住支援協議会

事業に関する事項

【市民活動支援事業】

■ 横浜市市民活動支援センター運営事業

(横浜市市民局市民活動支援課と協働契約を締結し実施しました)

別紙「2021(令和3)年度横浜市市民協働推進センター事業報告書」をご覧ください。

■ にしく市民活動支援センター(にしとも広場)運営事業

(横浜市西区役所と協働契約を締結し実施しました)

別紙「2021(令和3)年度にしく市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。

■ 市民活動エンパワメント事業

※ 本事業は、赤い羽根共同募金の配分金により実施いたしました。

成果

- 個別的、継続的な団体支援を自主事業化していくうえで、①実際の実施を通じて、支援団体からフィードバックを受けることができたことができました。
- 市民活動団体・NPO 法人向けの資料として、主に総会で活用できる資料をブラッシュアップしたうえでホームページに公開したことで、団体が活用できる資料・ノウハウを広く発信することができました。

課題

○ 横浜市市民協働推進センターで行っている市民活動支援事業とのすみ分けを明確にしていくこと、個別支援を受け入れるにあたってきっかけとなる場や機会、広報について検討することが今後の課題です。

事業の概要と実施したこと

横浜市内で既に活動している法人(下記、2団体)に対して、相談・メンタリングを通じた団体サポートを行いました。

- ① NPO 法人アスリード:個別相談・レクチャー、メンタリングの実施
 - NPO法人と営利企業との違いについて(レクチャー)

- 認定 NPO 法人について (レクチャー)
- 年度ふりかえり・個別サポートへのフィードバック
- ② NPO 法人フードバンク浜っ子南: NPO 法人初年度の総会事務支援
 - 総会に向けたスケジュール組みとタスク整理
 - 総会関連資料の提供とフィードバック
 - その他、総会事務に関する個別の質問対応
 - ⇒ 総会事務支援を通じて提供した関連資料は、法人ホームページに公開資料として
 掲載し、他団体が活用できるようにしました。

■連絡会の事業事務局代行

特定非営利活動法人横浜市地域密着型通所介護事業所連絡会の事務局機能の一部を代行してきましたが、任意団体として活動継続することとなり、NPO法人の清算に向けての事務を代行しました。特定非営利活動法人横浜市小規模多機能居宅介護事業者連絡会は、コロナ禍で活動が停止しており、今後の事業継続を検討しています。

【市民の目を活かした評価事業】

■ 第三者評価事業

- 福祉サービス第三者評価事業・指定管理者第三者評価事業
- 障がい者保養施設宿泊モニタリング(今年度はコロナ禍のため依頼なし)

成果と課題

成果

福祉サービスでは保育園を16件、地域療育センターを5件、計21件実施しました。コロナ禍の通常と違う状況で評価を受ける園の心配に対応し丁寧に打ち合わせを行い、また突然の休園に対しても日程再調整やオンラインでのヒアリング調査を実施するなどし、全ての調査を滞りなく実施することができました。

- コロナ禍に対応した園の努力も認めつつ、丁寧な質の高い調査・報告を実施したことで、当 法人の評価に対する感謝や嬉しいコメントを多くいただきました。
- 今年度も評価運営委員会や調査後の打合せは zoom 会議とし、調査員のリスクを減らすことができました。
- 第三者評価実施の全行程と事務局・調査員の役割等についての詳細マニュアルとして「福祉

サービス第三者評価実施要領」を作成しました。新規登録調査員、経験の浅い調査員に対して、評価手法や基準の考え方を示すツールとなりました。

○ 調査が始まる前の6月に勉強会を開催し、神奈川版「標準となる評価項目」の共通理解や使用ツールの見直しをしました。実例をもとにした評価内容の共有や、アンケート結果のフィードバックについてなど、活発な意見交換があり、調査員の学びの場となりました。

課題

○ 高齢・障害分野における受審料の半額補助(横浜市)が案内されていますが、残念ながら高齢・障害分野の施設の依頼はありませんでした。施設をもつ法人に引続き働きかけ、評価の効果や意味を伝えていく必要があります。

事業の概要と実施したこと

- -保育分野-
- ●ベネッセ保土ヶ谷保育園 ●ベネッセ新横浜保育園 ●ベネッセ日吉保育園
- ●ベネッセ市ヶ尾保育園●ベネッセ綱島台保育園●ベネッセ東戸塚保育園(株式会社ベネッセスタイルケア)
- ●戸塚ほしの木保育園(社会福祉法人相愛会) ●クラ・ゼミ保育園吉野町(株式会社クラ・ゼミ)
- あっぷるキッズつるがみね(社会福祉法人東京愛成会)ひびき保育園(社会福祉法人そだちの杜)
- ●西川島保育園(社会福祉法人白百合会) ●ナーサリーつづき(社会福祉法人和泉福祉会)
- ●すまいるセンターみなみ保育園(株式会社スマイルクルー)
- ●屏風ヶ浦保育園(社会福祉法人神奈川県社会福祉士事業団)
- ●みんなともだち保育園●みんなともだち保育園戸塚第2(株式会社 LaLaLand)
- 障害分野 -
- ●横浜市戸塚地域療育センター●横浜市北部地域療育センター●横浜市西部地域療育センター
- ●よこはま港南地域療育センター (社会福祉法人リハビリテーション事業団)
- ●地域療育センターあおば(社会福祉法人十愛療育会)

【地域活動支援事業】

■まちかどケア(認知症ケア)関連事業

「認知症になっても住み慣れたまちで本人も家族も安心して暮らせるようなまちづくり」をめざして、ご本人と家族を温かく見守ることができるよう、認知症を正しく理解する場をつくるとともに、地域における居場所としての認知症カフェの取組みの推進に取り組みました。

成果と課題

【1】認知症サポーターキャラバン(横浜市健康福祉局との協働事業)

成果

- 本年度、市内で実施された認知症サポーター養成講座は、388 回 合計 14,450 名の 認知症サポーターが養成されました。
 - 昨年度に引き続き、「認知症キャラバン・メイト交流会」を実施しました。
 - 認知症キャラバン・メイト登録者の更新についての調査を行いました。

課題

- 認知症キャラバン・メイトの活動の支援のため、地域の支援者や先輩メイトとつながるきっかけづくりとして、公式 LINE を活用していきます。
- 企業向けのキャラバン・メイト養成研修には、募集定員数の申し込みがあり、その後 も企業内でサポーター養成講座が行われています。引きつづき、企業向けキャラバ ン・メイト養成研修を行うにあたり、多業種の企業から参加いただけるよう、周知が 必要です。

【2】認知症カフェ事業

成果

昨年度に引き続き、横浜市健康福祉局と認知症カフェの新規立ち上げと運営者向けの交流を 目的として、事業を実施しました。コロナ禍にあっても、新規に地域で認知症カフェの立ち上 げを検討しているケアプラザや地域施設、キャラバン・メイトより参加がありました。

課題

○ コロナ禍で活動規模を縮小して実施し、中止している認知症カフェも多くあります。 引き続き、活動の工夫や継続について情報共有の場が必要です。

実施内容

認知症カフェ立ち上げ研修、フォローアップ研修&交流会

	立ちあげ研修	フォローアップ研修&交流会			
日時	11月30日(火)13:30~16:30	12月22日(水)13:30~16:30			
参加者	会場 30名	会場 14名 オンライン 19名			

	●講義「認知症カフェとは」	●講義
	コスガ聡一氏	「改めて今、それぞれの立場でできること」
講師・	●実践報告「立ち上げの実践報告」	ふれあい鶴見ホスピタル
	音楽スペース おとむすび 小柳玲子氏	副院長 石井映幸氏
内容	●ワーク「自分の開きたいカフェ」	●グループ交流
	NPO 法人街力フェ大倉山ミエル	「交流&運営の情報共有タイム」
	鈴木智香子氏	

【3】認知症ケア実務者研修

成果

認知症介護の基礎を学ぶ本研修は、入職後日の浅い職員や、認知症カフェに関わる方、認知症当事者、ご家族など、パーソンセンタードケアを軸とした認知症介護について学びたい方を対象に実施しました。

情報公表制度の研修項目、認知症ケア専門士単位認定講座に対応した内容は、受講希望が多く、昨年の倍近い定員を設定しましたが、両日とも満員となりました。今年度は情報公開制度対応研修の受講を目的として、地域ケアプラザや介護支援専門員職の参加が目立ちました。

また、今年度より横浜市健康福祉局の後援を得ることが出来、介護情報サービスかながわ での発信など、より広い広報につながりました。

課題

昨年に引き続き感染防止対策の為、会場の利用人数制限があり、大きな会場を探す必要がありました。間隔を広く開けて席を確保するため、メイン講師からの距離が遠くなる傾向がありました。

認知症ケアスキルアップ講座「認知症ケアの基本」

	第1日	第2日
日程	11月23日 (火)	12月26日(日)
時間	10:00-16:00	10:00-16:00
参加者	44 名	47名

講師

・内容

■「認知症について」/情報公開項目1

■「認知症の方の理解と 接し方の基本」/情報公開項目1 講師 井上義臣氏

- ■「認知症ケアの倫理」/情報公開項目4
- ■「事故発生及び再発防止」/情報公開項目 5 講師 井上義臣氏
- ■「身体拘束、高齢者虐待」/情報公開項目8·14 講師 原 啓子氏
- ■「ひもときシート」ロールプ V1/情報公開項目 8・14 講師 井上義臣氏

●メイン講師

井上 義臣 氏

高齢者グループホーム横浜ゆうゆう

●チーム担当講師

富田 克利 氏 長本 節子 氏

看護小規模多機能施設のぞみ 高齢者グループホーム横浜はつらつ

村井 キヌエ氏 村上 美佳 氏

若年性認知症デイサービストポス和果 プレザンメゾン横浜羽沢町

原啓子氏グループホームみのり

【4】認知症関連アプリ開発事業((株)NTTドコモと協働・共創契約を締結)

認知症になっても自分らしく暮らせるまちを目指し 2018 年度より取組みを始め、2021年7月に市民向け、キャラバン・メイト向けの2つの LINE 公式アカウントをリリースし、同時にセクターHP の認知症事業を独立させてまちかどケアサイトをオープンしました。さらに、コンビニでアルバイトする高校生を主人公にした「マンガでわかる認知症の方と出会ったら」を作成し、認知症の方への対応の一例としてわかりやすいガイドにしました。6月から1月にかけて市内8区でキャラバン・メイトに向け LINE 公式アカウントの操作の説明会を行いました。

成果

8 区のメイト向け説明会等で LINE 公式アカウントの周知を図った結果、登録者数は徐々に増え、3 月初旬時点で 200 名を超えるメイトに登録してもうことができました。市内には実質 1000 名程度活動中のメイトがいるため、5 人に 1 人に登録してもらったことになります。使い勝手を聞いたオンライン座談会ではおおむね利用しやすいというコメントをいただきました。まちかどケアサイトでは、認知症に関わる相談先や関連サイトを紹介しているため、実際に親御さんが認知症と診断された方に紹介したところ大変喜ばれました。マンガ版ガイドは好評で初版 1 万部が残り少なくなり 3000 部の増刷をしました。

課題

LINE 公式アカウントの利用者をさらに増やしていくために、メイト養成講座や交流会での周知を図るとともに、各区役所やケアプラザへの働きかけを引き続き行う必要があります。オンラインでの座談会は大変好評だったので LINE 公式アカウント利用者のオンライン座談会開催は定期的に計画してもよいかと思われます。

【5】まちかどケア動画製作 (赤い羽根助成金)

成果

2021 年 7 月に開始したまちかどケアホームページ(前項【4】)にて、より分かりやすくまちかどケアの取り組みを紹介するため、YOUTUBE 動画での情報発信を検討しました。認知症について知りたい方、認知症のある家族を介護することになった方を対象に、利用できる制度について知るきっかけとなるよう、次の 5 種類の動画を製作しました。

- ・認知症サポーター養成講座について知る
- ・認知症の家族を介護した経験から 家族の対談
- 看護小規模多機能型居宅介護施設の紹介
- ・サービス B 施設の紹介
- ・認知症グループホームの紹介(蔓延防止期間中の為、2022年度に撮影予定)

課題

新たな情報発信の媒体として、YOUTUBE 動画での情報発信を検討しましたが、公開後はホームページ、LINE アプリとの連動と周知が必要です。動画の制作については、引き続き、様々な介護保険サービスや地域による取り組みの情報発信を検討します。

■ よこはま地域づくり大学校

(1) 第 10 期 泉区まちづくりみらい塾

(泉区まちづくりみらい塾および横浜市泉区役所との協働事業)

成果

受講生同士や事例発表者と受講生とのつながりが生まれるよう、各回でプログラムの内容や工夫を考え実施した結果、学びのまとめの内容からは、生活していくうえでの地域とのつながりや、地域で活動をしていくうえでのつながり、など、地域におけるつながりが大事であることを感じ取られた声が見られました。また、今回のみらい塾がきっかけとなって、受講生や卒業生同士の様々なつながりが見られた点でも、第10期としての成果を残すことができました。

課題

まちづくりみらい塾としては 10 周年で終了となりますが、10 年間の積み重ねを活かしつつ、 今後に向けては、コロナ禍等、様々に変化する地域や社会における状況・ニーズに応じた、学び の実践や参加のきっかけづくりを検討していくことが課題として挙げられます。

事業の概要と実施したこと

第1講:11月6日(土)13:30~16:30 みらい塾卒業生による事例発表・講義

第2講:選択制による個別訪問

①11月27日(土)14:30~16:30 おはなしの風(会場:みんなの絵本のおうち)

②12月 5日(日)14:00~16:00 西区第4地区社会福祉協議会(会場:第4地区会館)

③12月11日(土)10:30~12:30 和泉中央地区社会福祉協議会(会場:いこいの家)

④12月18日(土)14:00~16:00 NPO法人宮ノマエストロ(会場:宮ノ前テラス)

第3講:1月30日(日)13:30~16:45 第1部:受講生による学びの成果とミニプラン発表

第2部:泉区まちづくりみらい塾10周年セレモニー

(2) 第10期 西区地域づくり大学校(横浜市西区役所との協働事業)

成果

新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式が定着してきていることを背景に、身近な地域に活動を共にする仲間と出会って地域のつながりづくりをテーマとしました。15 名の申し込みがあり、14 名が修了、それぞれのチャレンジプランを発表し、活動につながりました。

課題

西区地域づくり大学校は、今年度で10 期を迎えました。初期は、自治会町内会対象、中期は 公募にて居場所づくりをメインテーマとし、後期は、コロナ禍においてのつながり・仲間づくり をテーマとしました。今後もコロナ禍のなかで、受講生のチャレンジプランを実際の活動につな げ、また地域の課題と結び付けていくことが引き続き必要だと考えます。

事業の概要と実施したこと

第1講:10月23日(土) 『にしくについて知ろう』

第2講:11月21日、28日(日)『くらしのニーズと身近な活動を知ろう』

第3講:12月11日(土)『プランの実行に向けて準備しよう』

第4講:2月5日(土)『プランの振り返り&これからのつながりづくり」

(3) 第7期 神奈川区地域づくり大学校(横浜市神奈川区役所等との協働事業)

成果

感染症の影響が続いていることを鑑み、昨年度のプログラムを土台としつつオンライン・リアル開催いずれも想定し企画・準備を行いました。学生や子育て中のお母さんなど 30 代以下の若

手の参加が 1/3 を占め、住んでいる地域に関心を寄せる現役層がこれまで以上に増えていることを実感しました。

受講生同士の「繋がりつくり」を意識的に企画した結果、中心的に声かけを行う受講生が多かったこともあいまり、講座外での自主的な集まりの実施が見られました。

また、卒業文集の作成委員を募ったことで、往来のアクションプランシート掲載に加え、受講 生作成によるページが増え、オリジナリティが高まりました。作成を通じて受講生同士の結束力 も高まったようにも感じられました。

課題

個々のプランのブラッシュアップ・実現に向けてのサポートを目的に、各回に地域ケアプラ ザ職員(特に地域活動交流コーディネーター)の参加を呼びかけました。積極的な参加があり ましたので、来年度以降はより深く関わり、卒業した後の受講生との連携がスムーズに行える 仕掛けができたらと考えています。

今後もオンラインの実施可能性があることから、オンラインであっても絆を深め合えるような 機会づくりが重要であるとあらためて感じました。

事業の概要と実施したこと

第1講:9月19日(日)

「ここからはじまる地域づくり大学校~あなたの小さな「やれるかも」を実現するために 知っておきたいこと~」

第2講:10月16日(土)

「仲間とすすめる地域活動のつくり方~活動の応援者・理解者を増やすコツ~」 事例発表:街なみ花物語、神大寺ナビ、羽沢長谷かめっこ、ふれあいっこ三ツ沢

第3講:11月14日(日)「「楽しさ」が活動の原動力!~ひと・まち・未来のために地域活動ができることを事例から学ぶ~」

事例発表:北山田町内会(都筑区)、NPO法人宮ノマエストロ(泉区)

第4講:1月16日(日)「アイデアをカタチに!~地域活動のこれからを描く~」 <個別相談>受講生20名とのアクションプランに関する個別相談を実施。

第5講:3月27日(日)「終わりがはじまり!~やりたいことを地域につなげるアクションプラン発表~!

※第1講はオンライン実施とし、第2~5講は横浜市市民協働推進センタースペース AB を会場に 実施。(オンライン実施にあたっては、上記センターの協働ラボから配信)。

<講師>

【第1講~5講】塚原 泉 さん

(NPO 法人親がめ理事・神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ施設長)

■ ヨコハマ市民まち普請事業

(横浜市都市整備局地域まちづくり課、横浜市住宅供給公社と協働契約を締結し実施します。)

三者協働によるヨコハマ市民まち普請事業の事務局運営を行いました。

成果と課題

成果

横浜市住宅供公社、横浜市都市整備局地域まちづくり課との三者による協働運営を行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、コンテストの YOUTUBE 配信を担当し、配信を行いました。

課題

今後も、市民主体のまちづくりにつながる制度として、多くの市民がチャレンジできるよう、事業の周知方法や、コンテストの実施方法等について工夫していく必要があります。

事業の概要と実施したこと

「私たちのまちを、私たちがつくる!」そんな思いをカタチにするための地域協働のきっかけづくりとなる事業です。身近なまちのハード整備に関する提案を募集し、2回の公開コンテストで選考された提案に対して最高 500 万円の整備助成金が交付されます。今年度、当法人では、主に、整備箇所現地視察、コンテストの運営補助(記録、設営・備品)および広報を行いました。

◆ 公開1次コンテスト

【日時】2021年7月10日(土)

【会場】横浜市役所1階アトリウム

8 グループからの提案のうち、6 グループが 2 次コンテスト対象提案として選考されました。

◆ 公開2次コンテスト

【日時】2022 年 2 月 6 日(日) 【会場】横浜市役所 1 階 アトリウム 公開コンテストの結果、以下の 3 提案が整備助成対象提案として決定しました。

提案名	グループ名
都筑ふれあいの丘「モヤ→キラ」コミュニティカフェ	地域コミュニティ居場所づく
● 即取りM にのいい丘(モド→キフ)コミュニティカフェ	り実行委員会
地域で繋がり、楽しむ!多世代・多国籍交流の新拠点	まちとも 霧が丘
八景市場ANNEX-自らつくり, つながる場所	食卓八景 – つながりのリビン
八泉中場 A IN IN E A - 日り フヘリ, フなか ()	グをつくる会

※コンテスト業務のほか、まち普請事業部会や関連イベントに参加しました。

◆まち普請事業に関する広報の取組み

制度やコンテストをはじめとする関連事業の広報として、以下の取組みを行いました。

- 横浜市市民協働推進センターにおける事業を通じた広報
 - ・ メールマガジン:各イベント・応募案内
- 法人事業を通じた広報
 - ・ 西区地域づくり大学校:まち普請事業の制度紹介
 - ・ 泉区まちづくりみらい塾:まち普請事業の制度紹介

■ スタディツアー(企業・NPO 編)

(神奈川県 NPO 協働推進課と協働契約を締結し実施しました)

今回は、関心のあるテーマを選んだ参加者同士がチームとなって、各テーマの課題解決に向けて取り組む団体を訪問しました。団体へのヒアリングやチームでのレポート作成を通じてそれぞれのテーマの現状を知り、取り組むべき社会や地域の課題について考えることを目的としました。

成果と課題

成果

前年度に続いてオンラインでの実施となり、個別訪問型のプログラムを踏襲しつつ、訪問先に企業の実践、協働・協業の実践が入ることで、企業の持っている専門性や技術を、地域や社会の課題にどのように活かすことができるかという視点で、今後の協働・パートナーシップに向けた議論することができた。

課題

全面オンライン参加に切替わる中、会場協力いただいた京セラ株式会社様はじめ、多くの力

を得てオンライン訪問を実現することができた。一方で、長時間に亘るオンライン参加は厳しいという意見や、参加者同士の交流やコミュニティを生み出すことに限界がある、といったことが課題として挙げられます。

事業の概要と実施したこと

【日時】

2022年2月3日(木) 10:00~16:00

【参加者】

23 名 (NPO15 名、企業 7 名、大学生 1 名)

【テーマ】

先の読めない時代に

ともにソーシャルイノベーションを起こすために

~協働から得られる気づきとは?~

【配信会場】

ICHIMATSU スクエア

【プログラム/訪問場所・団体】

すべての訪問先の発表を聞いた上で、「深掘りヒアリングタイム」にて関心のある訪問先を選んだ参加者同士がグループとなり、ヒアリング、意見交換を通じて、各々の関心を深め、これからの協働・パートナーシップに向けてのヒントについて考えることを目的としました。

訪問先1 富士通 Japan 株式会社 神奈川支社 第四ビジネス部

訪問先2 株式会社横浜セイビ

訪問先3 NPO法人アスリード

訪問先4 NPO 法人森ノオト

訪問先5 一般社団法人ラシク 045

■ ZOOM 講座

成果(経緯)

- ○各区区民活動支援センターや図書館等からご要望いただき、市内3か所にて「Zoom 講座」 を行い、全5回でのべ58名の参加がありました。
- ○区役所や各区民活動支援センターの要望で「オンライン配信支援」を全3か所で5回行い オンライン配信のノウハウをお伝えし、実際に開催する際ご一緒することで機材や 人員配置、進行表作成の協力をしました。

○区役所の依頼で区内施設を対象に「Zoom 講座」を開催予定でしたが、コロナ禍により開催が見送られました。開催しない代わりに区役所内や区内施設配布用として、解説資料を作成・配布しました。

課題

- OIT リテラシーや環境によって、学びのスタートラインが違うため、受講生の環境に合わせた カリキュラム、資料作り、個別相談を実施する必要があります。
- ○区によって Wi-Fi 等ハードの環境差が大きいため、丁寧にヒアリングした上でノウハウを 伝える必要があります。

事業の概要と実施したこと

日時	場所	内容(参加者)				
5月27日(木)		はじめてみよう!Zoom 会議				
10:00-12:00	青葉区区民活動支援セン	はしめ Cのよう! 20011 云識 1) Zoom に参加してみよう(15 名)				
6月3日(木)	ター	2) 会議を開催してみよう (16名)				
10:00-12:00		2) 公賊と開催してのよう (10 石)				
6月21日(月)	泉区医師会	 地域包括ケアシステム構築のための人材育				
14:00-17:00		成研修(50名)				
8月19日(木)	オンライン(泉区医師会)					
14:00-17:00		育成研修(30名)				
8月19日(木)	オンライン(泉区医師会)	夜)在宅医療相談室主催研修(30名)				
19:00-21:30		次,在6色涂油欧王工程机19(30 名)				
11月8日(月)	 さかえ区民活動センター	Zoom を学ぼう!(16 名)				
13:00-16:00		200川で子はフ! (10石)				
11月26日(金)	横浜市市民協働推進セン	区民利用施設職員研修会(旭区)(16 名)				
14:00-16:00	ター	区以州州地政城央州形公(地区)(104)				
12月9日(木)	横浜市市民協働推進セン	港北区施設間連携会議(30 名)				
13:10-16:30	ター	/246区/地域间连155五碳(30 石)				
2月2日(水)	山内図書館	1)はじめての Zoom 体験講座(参加者編)				
10:00-11:30		(5名)				
2月9日 (木)	山内図書館	2)はじめての Zoom 体験講座(主催者編)				
10:00-11:30		(6名)				

2月4日(金)	みなみ市民活動・多文化共	区役所・区内施設向け Zoom の使い方 (資料
15:00-16:00	生ラウンジ → 中止	作成→配布のみに急遽変更)
3月25日(金)	法人事務所および鶴見区	補助金交付団体交流会(鶴見区)(25 人)
13:30-16:30	役所より配信	補助並父刊凶体父流云(鶴兄区)(25 人)

「災害復興暮らし応援・みんなのネットワークかながわ」(通称みんかな) 「市民社会ネクストステージ研究会」

成果(経緯)

広域大規模災害発生時にはNPO等民間団体と行政、社協が一体となった被災者支援が、発災 当初のみでなく、長期間にわたって必要とされます。横浜市が大災害の被災地となったときに備 え、被災者のくらしの復興をさまざまな団体が連携して長期に亘り支える仕組みをつくるため、 神奈川県内の団体等の連携・協働を進めるネットワークづくりを目的とした活動を行いました。

課題

コロナ禍でも県域の団体との連携・協働を進めるネットワークづくりを進めるため、オンラインを活用した勉強会、交流会を実施する必要があります。

事業の概要と実施したこと

事業 1 横浜市における三者連携の必要性の共有

横浜市における災害救援に関わる主要な関係者(行政、社会福祉協議会、災害ボランティア 団体など)との相互理解を深め、大規模災害発災後のNPO等との連携の必要性やそのため の仕組みのあり方について共に学び、検討するため、連携関係者への説明、協働での学習 会・研修会を開催しました。

- 三者連携の関係者への説明(訪問、意見交換) 横浜市総務局防災企画課、健康福祉局福祉保健課との意見交換 3回(8/19,11/5,2/8)
- 社会福祉法人横浜市社会福祉協議会との意見交換 1回(12/3)

● 学習会・意見交換会の協働開催

セミナーの実施(3/18)

テーマ:マルチセクターによる被災者支援を考える

広域大規模災害における官民連携体制構築のための勉強会

実施方法:オンライン

講師: 菅野拓 氏(大阪市立大学 大学院文学研究科 人間行動学専攻 准教授)

参加者: 25 名

事業 2 横浜市域の民間支援ネットワークの構築と参加団体の拡大

横浜市内の各エリアや分野で情報・ネットワーク・活動実績を持つ NPO・中間支援団体や事業者の方々同士が、様々なテーマや共通の関心ごとに対して情報交換し、分野・エリアを超えて学び合うための場として、2020 年に「市民社会ネクストステージのための研究会」が立ち上がりました(当初参加団体数は約 20 団体)。この研究会の中に「災害支援部会」をつくり、横浜市域の災害時民間支援ネットワークの構築と参加団体の拡大を目指し、参加団体との学習会を実施しました。

◆ ネクストステージ研究会・災害支援部会(12/24)

テーマ:活動区の被害想定・アンケート調査の共有

実施方法:対面

参加者:11名(8区11団体)

事業3 災害時区域における連携構築の現状調査

地域の防災拠点等の見学や防災関係者と意見交換を行い、区域(または小地域)における、町内会、連合町内会、区役所、社会福祉協議会、ボランティア団体等の連携の現状に関する情報収集を行いました。

- 都筑区市民活動団体(NPO 法人 Sharing Caring Culture、チャルラス都筑)ヒアリング
- 鶴見区平安町防災訓練見学(11/3)
- 戸塚区上矢部地域ケアプラザヒアリング(11/25)
- 鶴見区総務課危機管理地域防災担当ヒアリング(1/27)

資料編

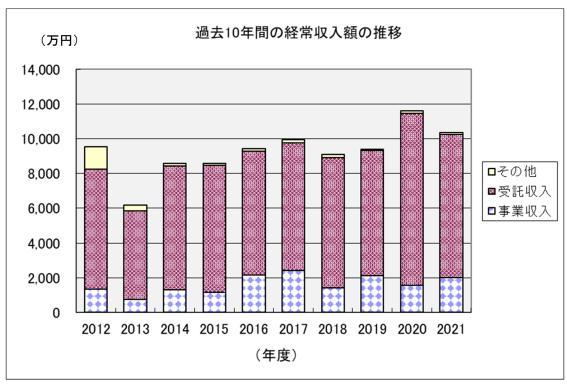
(1) 会員数の推移

	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
合計	136	141	125	176	145	184	195	216	204	192	186

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
合計	196	193	150	147	146	138	134	137	114	118	114	101

- ※ 各年度末(3月末)の数値です。
- ※ 正会員・準会員・賛助会員を合計した数値です。
- ※ 数年以上会費納入のない会員について、2012 年度、2018 年度に整理作業を実施しました。

(2)収入額の推移と内訳



- ※ 受託収入=行政からの委託事業(行政との協働事業)
- ※ その他=会費収入・助成金収入・寄付金収入など
- ※ 借入金収入や前期繰越金は含めていない
- ※ 2013年度、第2事業部が独立

(3) 市民セクターよこはま 沿革

1998.7	「市民セクター構築のための研究会」発足
1999.9	市民セクターよこはま 設立 (9/28)
1999.12	横浜市への要望書提出「新しい公共の創造へ向けて」
2000.1	
2000.9	横浜移動サービス協議会発足(移動プロジェクトより独立)
2001.7	
2002.2	横浜ワールドポーターズに「NPO スクエア」開設 同所に事務所移転
2002.7	NPO マネジメント支援プロジェクト発足(~2005.9)
2002.10	横浜市市民活動共同オフィスの管理運営を受託(~2009.3)
2003.4	NPO 法人「市民セクターよこはま」設立・登記 (認証 4/1)
2003.5	設立総会、NPO 法人設立記念パーティ
2004.5	理事長松本和子退任、服部一弘就任
2004.7	横浜会議で研究テーマを提案、採択される
2004.8	認知症ケアマネジメント推進事業開始
2004.11	福祉サービス第三者評価事業開始
2005.6	地域福祉コーディネーター養成研修開始
2005.8	NPO 等に対する相談・アドバイス事業開始(~2008.3)
2006.5	「介護サービス情報の公表」に係わる調査事業開始(〜2009.3)
2006.12	理事長服部一弘退任、松本和子就任
2007.1	横浜市指定管理者第三者評価事業開始
2007.10	コミュニティビジネス支援事業開始
2007.11	横浜市中区住吉町(関内)に事務所移転
2008.5	理事長松本和子退任、中野しずよ就任
2008.7	区役所窓口サービス向上支援事業開始(~2010.3)
2009.4	よこはま地域づくり大学校事業開始
2009.5	定額給付金の代理受領および横浜市への寄附手続き開始(〜2009.11)
2009.7	横浜市市民活動支援センター運営開始
2012.7	認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)として国税庁より認定
2013.4	横浜市中区太田町(馬車道)に事務所移転
2014.4	横浜市市民活動支援センター運営(2期目)
2014.4	にしく市民活動支援センター運営開始
2017.4	横浜市認定特定非営利活動法人(横浜市認定 NPO 法人)認定

2019.4	にしく市民活動支援センター運営(2期目)
2019.5	通常総会、市民セクターよこはま 20 周年記念フォーラム
2020.3	横浜市市民活動支援センター運営を終了
2020.4	横浜市市民協働推進センター運営 開始

(4) 2021 年度の役員・事務局スタッフ

● 役員 (理事・監事)

理事長	中野しずよ
副理事長	松本道雄、鈴木智香子
理事	伊藤朋子、加世田恵美子、河原勇輝、小島敏明、山野上啓子、吉原明香
監事	竹谷康生、荒木田百合

● 事務局スタッフ

常勤・非常勤アルバイト	吉原 明香 (事務局長)
	横浜市市民協働推進センター配属
	常 勤:関尾潤、薄井智洋(~2021 年 8 月)、
	小川彩子(~2022年3月)、田中優加
	染谷日向子(~2022年2月)、細井綾
	佐藤貴美(~2022 年 3 月)、
	伊吾田善行(2022年2月~)
	非常勤:大河原正人(~2021 年 9 月)、撞井靜雄、
	原田姫子、村田育男、中野芽衣、
	大塚宏(~2022年3月)
	にしく市民活動支援センター配属
	加世田 恵美子、山田 素子、藤﨑 さゆり、今村 利恵子、北川 洋
	法人事務所配属
	石川 亜紀子、内田 智美

横浜市市民協働推進センター

2021年度事業報告書

市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体 横浜市市民局協働推進課

2021年度事業の振り返り

社会や私たちの暮らしは、withコロナが常態化しました。この状況に慣れていった一方で、 人々の心には、少しずつストレスが溜まり、経済面で厳しい状況におかれる人も多くありました。当センターでも、感染状況に合わせて事業展開するなどの対応を行いましたが、「協働推進」という大きな命題に対して、十分な動きがとりにくい感覚がありました。

そのような中、NPO法人等を対象とするアンケート調査を実施しました。刻々と変わる社会や地域の状況に対応して、活動実践者は何を思い、どう取り組んでいるのか、知る必要がありました。

そしてコロナ禍で暮らしていく中、さまざまな困りごとが深刻化していること、団体運営の厳しい現状と、一方それを団体同士のつながりによって乗り越えようとしていることなどがわかりました。併せて、協働を推進する当センターへの期待や示唆に富んだ意見も多く寄せられ、今後の事業展開の礎の取組となりました。

~多様な主体がともに学び合う場を積極的にしかけ、協働のきっかけをつくり、 コーディネート機能を発揮したことで、協働プロジェクトが次々と生まれる~

2021年度も、協働は自分たちだけでは解決できない問題・課題を解決できる可能性のある取り組みであることを理解し合う、学び合いの場を数多くつくりました。

また、これからの時代に向けて、協働で取り組むことが、特別なことではないこと。みなで力を合わせて、より良くしていくことは、サスティナブル(持続可能)な社会のあり方、暮らし方の基本的なスタイルであること。これらのメッセージを発信することに年間を通して取り組みました。

具体的には「協働のはじめ方スタートアップガイド」、情報紙「in spiral(イン スパイラル)」等の広報ツールを発行、ホームページでは、協働事例を積極的に発信しつつ、併行して、全面改訂に取り組むなど、センター機能また協働の「見える化」にも力を入れました。

そして、さまざまな社会的な課題が深刻化する中、その状況にコミットしていこうという地元企業や大企業の具体的な動きが始まりました。当センターはNPO法人・中間支援機関・行政所管部署等をコーディネートし、伴走的な関わりを継続しています。地域に根付いた取り組み、グローバル展開を見据えたSDGsにつながる取り組みなど、協働プロジェクトが次々と生まれてきています。

上記の動きは、SDGsデザインセンター・温暖化対策統括本部SDGs未来都市推進課・企業提案の窓口機能を担っている政策局共創推進課等との連携し、それぞれの強みやネッワークを活かして取り組んだからこそできたと考えています。

さて上記のような成果につなげることができた一方で、いくつかの課題も見えてきました。

- ・横浜で積み重ねられてきた、市民主体のまちづくりという基盤を活かして、様々な中間支援機能のある団体によるネットワークをさらに強化し、協働のコーディネート体制をさらに充実させる必要があること
- ・上記課題を解決していくためにも、またよりニーズに沿った事業を展開していくために も、積極的にデジタル技術を活用しながら、業務を効率化して進めていく必要があること
- ・横浜市全体の中間支援組織や支援機関、地域施設、地域に根ざした活動との連携も視野に 入れながら、協働体制充実の仕組み化をより意識して進めていく必要があること などです。

上記成果と課題については、2022年度の事業展開につなげていきたいと考えています。

総合相談窓口事業

① 協働のコーディネート

【現状分析】

- 具体的な課題解決につながるコーディネート事例が増えてきました。協働・共創・SDGsという切り口で、関係部署とつながることでより良いコーディネートができてきています。
- 市民局市民協働推進課と連携し、適切なタイミングに行政の各所管課に繋ぐことができるようになりました。
- 一方、具体的な助言を得られる半面、行政からのニーズがあまり引き出せていません。また、相談数に比例して継続フォローが増えていくのに対し、相談対応ができる職員やコーディネーターが不足している傾向にあります。

【事業実施内容】

協働に関する相談、及び機関との連携(通年実施)

【事業の成果】

- 複数以上の主体の協働事業につながる相談 年間36件(2020年度18件) (内訳)
- 複数以上の主体の協働事業に発展する可能性のある事案の件数 9件【継続A】 (2020年度10件)

継続テーマの例

- ・芸樹系大学・企業・重度心身障がい児当事者団体等の連携
- ・乳がん検診の啓発団体+乳房再建バイオ企業の連携
- ・離婚家族の面会交流支援団体ネットワークづくり+子育て支援拠点との連携
- ・子どもと地域なりわい企業のつながりづくり・法人事務所一部スペース地域活用
- ・持続可能なフードパントリーの運用
- ・マイクロプラスチックゴミ収集の大岡川での実証実験
- 少し時間はかかかりそうなものの、小さな実践などに取組み中で、今後もフォローしていく件数 28件【継続B】(2020年度8件)

【来年度に向けて】

• 現状分析を踏まえ、来年度取り組む「行政を対象とする調査研究」「協働研究会」「協働フォーラム」「協働コーディネーター養成講座」と連動した実施をしていきます。

【担当者所感】

- 協働提案をいきなり行政に行うというよりも、まず民と民がつながり、できることをともに 学び考えるプロセスが大事とわかりました。
- その取り組みを行政に伝え、興味をもって主体的に関わってもらうことで、対等な関係にもなりやすく、お互いのニーズを汲みとり合うような対話が生まれやすくなります。
- 上記のプロセスを丁寧に進めていくことで、本質的な共通目的・目標が持てるようになる場合も多いことがわかりました。
- 幅広い分野や対応を求められることから、フォローしていく職員が経験を重ね、スキルアップしていく必要性を日々感じています。
- 相談者それぞれに必要な支援を見極め、その後に繋がる機関や組織に繋げていくことで、協働という手法による実行力・可能性の向上に寄与していきたいと考えています。

1

総合相談窓口事業

② 市民活動に関する相談

【現状分析】

- 上半期は、「法人事務に関する相談」や「他団体・他機関との連携に関する相談」が多い傾向が見られ、NPO法人に関する相談先として、あるいは、協働の実践に関する相談先として定着しつつあります。
- また、相談の内容を見ると新型コロナウイルスの感染拡大状況に関連・起因した相談も多く、まだまだコロナ禍の影響が市民活動団体に及んでいる状況があります。

【事業実施内容】

- ・市民活動に関する相談を通年で実施しました。
 ※ホームページ問い合わせフォーム・電話で受付、オンライン(Zoom)や対面実施
- ・士業&活動実践者相談を通年で実施しました。
 - ※税理士・社会保険労務士・弁護士、活動実践者への相談を対象(一部団体負担あり)
- ・「ポストコロナにおける活動に向けたNPO法人・市民活動団体アンケート調査」を実施しました。
- ・総合相談窓口パンフレット(「NPO法人・市民活動団体応援ガイド」)を作成・発行しました。
- ・「団体&NPO法人設立miniハンドブック」を作成・発行しました。

【事業の成果】

• 市民活動に関する相談:

年間件数 624件(2021年4月~2022年1月)

-主な項目別の相談件数:

センター機能に関する問い合わせ・・・・・・・123件 空家マッチング・・・・・・・・・・105件 法人事務・・・・・・・・・・・・・・81件 他団体・他機関との連携 法人事務・法人事務(会計・税務・労務)・・件

-士業相談: 年間件数18件(税理士9件 社労士6件 弁護士3件)

-活動実践者相談: 年間件数5件

• NPO法人・市民活動団体アンケート調査

最終回答数は328団体(回収率18.4%)。調査の結果は、2021年11月に「中間とりまとめ (冊子版)」「概要(A3見開き版)」を発行しました。自由記述質問項目の分析・まとめを含めた全体版を2022年3月にホームページで公開しました。

- 「NPO法人・市民活動団体応援ガイド」 相談機能の紹介だけでなく、団体が自ら課題を解決できるよう様々なヒントを記載したガイドを作成しました。(2021年7月発行)。
- 「団体&NPO法人設立miniハンドブック」 団体による実践をもとにしながら、団体・NPO法人設立に関する相談対応で伝えている 情報を整理し、市民協働推進課(NPO法人担当)とも連携しながら、ハンドブックを作成 しました(2022年3月発行)。

【来年度に向けて】

- 市民活動団体を対象としたアンケート調査から把握した、団体が抱える課題や、連携・協働に対する意向等の情報を次年度事業に活かします。さらに、団体から連携・協働を期待する先として挙がった行政を対象とした調査を実施することで、より連携・協働の取組の促進に向けた方策を検討・実施していきます。
- 団体・NPO法人設立miniハンドブックを、センターでの相談対応に活かすだけでなく、区市 民活動支援センターでの団体・NPO法人設立に関する対応に活用します。

【担当者所感】

• コロナ禍の状況が続き、市民活動団体への影響が長期化する中で、団体が活動を継続していくためには、組織・運営の基盤を強化していくことが課題として調査から挙がってきていることから、センターとして相談や情報発信の事業を通じて支援していくことが求められると考えます。

③協働に関する情報の蓄積と活用、

ホームページ・SNS・情報誌等による発信

【現状分析】

- 2021年度は昨年度に続き感染症の影響が大きく、センターへの来館に依らない情報発信が求められる状況でした。
- 情報リテラシーの有無によって、情報の格差が広がっていくことが予想されます。協働推進センターとして発信すべき情報を見極め、届けるべき層へ、しっかりと伝わる発信が求められています。

【事業実施内容】

• 対象:協働による社会課題・地域課題の解決に関心がある層、およびやや関心はあるものの、 具体的な関わりは少ない協働潜在層。(市民活動団体、企業、施設、機関、行政等多様な主 体を意識して蓄積・発信する)

【事業の成果】

<協働の取組みに関する情報の蓄積と活用>

- 協働推進センターのプロジェクトページに協働の取組を掲載:4件
- センター主催イベントのアーカイブをHPに掲載:6件

<ホームページ・SNS等による協働に資する情報の発信>

- メールマガジン(4903名登録 ※更新する)の配信:年31号配信
- Facebook: 登録者数(555人) · Twitter: 登録者数(51人)
- Instagram: 登録者数(111人)

<HP改修について>

- 開設から2年経過し、センターが市民からのどのような利用ニーズが多いのか見えてきた事、またセミナーやイベントの情報発信、アーカイブなどのデータの蓄積が増えてきたことから、情報の見せ方の方針を整える改修を行いました。また相談事業など問い合わせが多い分野など、事前のフォーム入力にてスタッフの工数を減らすためのデジタル活用を進める改修を実施しました。
- <中間支援機能を持つ組織・団体との情報交換>
- 東京、京都、岡山の中間支援組織との情報交換会を実施。2021年度事業の振り返り・2022年度に予定する事業の構想などを話し、各自が持つナレッジを共有しました。共通課題や工夫を話す機会は貴重であることの実感から、終了後に参加組織から継続開催の希望が挙がっています。次回以降はよりテーマを絞り、議論を深めていく構成にしていく必要があります。

<パンフレットの作成・配布>

- 開館から2年となり、分かってきたニーズに応じて「センターパンフレット」の更新、「協働のはじめ方スタートアップガイド」「NPO法人・市民活動団体応援ガイド」の作成を行いました。窓口や相談対応の際、役立てています。
- <情報誌の作成・配布>
- 推進センターの機能や協働の事例を紹介する情報誌を作成しました。
- <発行物の発送>
- 7~8月と11月にセンター発行物(パンフレット・チラシ等)の発送を行いました。 発送先:市内NPO法人、登録団体、市民活動関連施設、庁内メール等約3,000件

【来年度に向けて】

• 気軽に立ち寄れるセンターとして認知されている状態を目指し、各イベントやセンターの様子を広報していきます。

【担当者所感】

• SNS運用では、公式アカウントならではの制約(相互フォロー・リプライ・シェア不可等)があり、フォロワー数が伸ばしにくい状況にありましたが、少しづつ増えてきました。来年度も対象の視点を持ってニーズに合致したコンテンツを作成・広報し、各広報手段の効果を検証しながら実施していく必要があると考えます。

4)様々な主体の交流・連携から新たな知を生み出す「対話&創造ラボ」

【現状分析】

• それぞれのイベントで個々の組織や個人の"協働"にまつわるエピソード、協働のステップの進め方、少しずつ生まれてきている社会的インパクトに触れ、情報として発信している。しかし、協働のポイントを紐解くような情報の整理、蓄積までは出来ていない。また、コロナ禍の為リアルで集えないため、交流の時間をうまく設けることができていない。

【事業実施内容】

<テーマ>

今年度は"社会をアップデートするための【協働】を紐解こう!"をテーマに、推進センターとして考える【協働】 とは何か?また【協働】のプロジェクトを言語化し、可視化するための共通リテラシーの構築を目指した。

<対象>

- 課題に取り組むNPOや企業人材や市民で、現状の壁をもう1つ超えたい、越えようとしている層
- 協働による社会課題・地域課題の解決に関心がある層、およびやや関心はあるものの、具体的な関わりは少ない協働潜在層。(市民活動団体、企業、施設、機関、行政等の多様な主体)

<イベント詳細>

○第一回 基調講演 | 社会をアップデートするための【協働】の解像度の高め方

登壇者:太刀川英輔さん(NOSIGNER代表)

日時:12月3日(金) 実施方法:ハイブリッド

参加人数:72名(会場参加:12名、オンライン参加:60名)

○第二回 社会をアップデートするためのパーパスモデルを学ぼう

登壇者:吉備友理恵さん(一般社団法人Future Center Alliance Japan/株式会社日建設計イノベーションセンタ

—)

日時:1月21日(木) 実施方法:オンライン(Zoom)

参加人数:29名

○第三回 協働の実践から学ぼう 鶴見川の総合治水と多様な流域治水の展開

登壇者:岸由二さん(NPO法人鶴見川流域ネットワーキング 代表理事 / 慶應義塾大学名誉教授)

日時:2月18日(金) 実施方法:オンライン(Zoom)

参加人数:52名

○第四回 協働の実践から学ぼう SDGsをテーマとした官民地域連携まちづくり

登壇者:麻生 智嗣さん(ヨコハマSDG s デザインセンター) 、川原 正樹さん(MONET Technologies)、

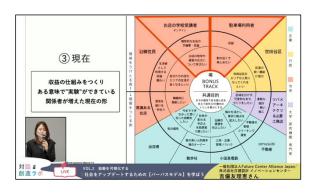
丸野 豊さん(一般財団法人若葉台まちづくりセンター)

日時: 3月3日(木) 実施方法: オンライン(Zoom)参加人数: 30名

<コミュニケーションツール|Buddyup!(実証実験ツール)>

全登録者数:73名





【事業の成果】

今年度は複数部署と共に取り組むことで、センターのみではリーチできない層の参加を促すことができた。また第二回に紹介した協働を可視化するフレームワーク「パーパスモデル」を紹介、複数のステークホルダーが一緒に連携しながらプロジェクトを進めていくプロセスの可視化、どのようなきっかけで次のステージに行くことができたのかを、ツールの紹介を通じて届けることができた。また第4回も「パーパスモデル」を活用することで、各回の繋がりとテーマを深めるきっかけ作りができた。合わせて、Buddyup!を通じて、オンライン開催でも参加者同士の交流機会を創出、市内の様々なプレーヤー同士の顔合わせの機会を生み出せました。

【来年度に向けて】

• センターとして市内に生み出していきたい【協働】とは何か、また【協働】の担い手の育成を進める上で、他者との協働プロジェクトの分析・理解を深めることは必須。【協働】のリテラシーを高める上で、今回紹介した「パーパスモデル」など、共通言語となる【協働】のカルチャーを伝えることを続けたいです。

【担当者所感】

• 「協働」というキーワードを元に、複数部署の職員と連携できたことと、そのご縁でイベントを開催できたことは 大変良い機会でした。参加者からの有難いフィードバックを、次年度の計画に活かしていきます。 6

【事業の成果】

• 複数部署と共に取り組むことで、センターのみではリーチできない層の参加を促すことができました。また、Buddyup!の実証実験を通じて、オンライン開催にも関わらず事後交流を設けることができました。また、紹介いただいたパーパスモデル等のツールを使って、相談時にも「協働」の可視化をしやすくなったと言えます。

【来年度に向けて】

• このイベントは誰を対象とし、終わった後に何がゴールなのか、また、参加者同士の繋がりと推進センターとの繋がりの継続方法は模索の余地があると考えます。また、協働コミュニティ形成については、引き続き行う必要があり、それが財産にもなると思うので参加者に寄り添い、また参加したくなるイベントとして継続していけると良いと思います。

【担当者所感】

• 「協働」というキーワードを元に、複数部署の職員と連携できたこととそのご縁でイベント を開催できたことは、当センターにとっても大変良い機会でした。参加者からの有難い フィードバックを、次年度の計画に活かしていきます。

5 協働に向けた人材養成のための連続講座

「パブリックアクション」

【現状分析】

• 横浜市では条例に掲げるなど市民協働を推進してきたが、団体の活動レベルでの浸透しているとは言えない状況にある。協働に取り組む主体(主として市民、NPO、行政職員)が、協働の概念、具体的な考え方や進め方についての基本を学ぶ場として本セミナーを位置づけた。

【事業実施内容】

(1) 企画概要

日時:2021年12月から2022年2月まで〈第5回〉 各回18:30~20:45 開場18:00~

場所:横浜市市民協働推進センター(オンライン配信)

対象:市民協働や民間同士の協働の取組に意欲・関心がある市民/企業/行政職員

内容:協働の取組に必要な知識や考え方を理解するとともに、協働のスキルの向上を図り、

将来的に協働事業の立案を目指すセミナー

(2) コンセプト

○個人・団体の課題認識や未来志向の考えを大事にしながら、公共性・公益性などのパブリックな視点で地域や社会を捉えられるようになる。

- ○多様な主体やセクターワイドな関係性を築くことによって、課題解決や新たな事業創出に つながるイメージができるようになる。
- ○市民協働提案事業にチャレンジする人を増やし、協働プロジェクトが市内全域で創出される ようになる。

(3) セミナー内容

第1回【公開講座】身近な市民協働 <キックオフ> 12/9実施/47名

講師:佐伯美華さん 横浜市立幸ケ谷小学校 学校・地域コーディネーター 須藤シンジさん NPO法人ピープルデザイン研究所 ファウンダー

ナビゲーター:森祐美子さん 協働コーディネーター

第2回 協働のイロハを学ぼう!

12/21実施/25名

講師:中島智人さん 産業能率大学教授/市民協働推進前委員長 岡本今日子さん 横浜市市民局市民協働推進課長 加藤慎介さん 横浜市市民局市民協働推進課担当係長

第3回 自治体とNPOの共創・協働をすすめる仕組み

1/26実施/20名

講師:石原達也さん NPO法人岡山NPOセンター 代表理事 中川悦宏さん 横浜市政策局共創推進室

第4回 市民協働のプロセスを読み解く

2/9実施/23名

講師:小林範和さん NPO法人鶴見川流域ネットワーキング 事務局長 岩室晶子さん 認定NPO法人ミニシティ・プラス 事務局長

ナビゲーター:鈴木智香子さん 協働コーディネーター

第5回 受講生による市民協働事業プラン発表会

2/24実施/20名

講評:鈴木伸治さん 横浜市立大学教授/市民協働推進委員長 中島智人さん 産業能率大学教授/前市民協働推進委員長

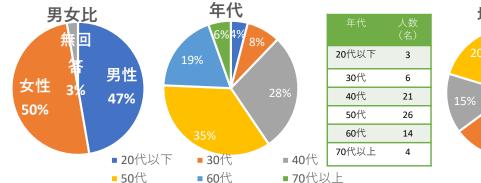
【提出された事業プランのテーマ】

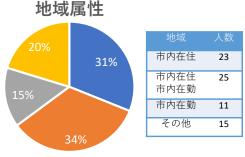
- 1. "ちょっと気になる"をアートで見える化する
- 2. 障害があっても楽しめる食の提供について
- 3. わくわくライフセミナー
- 4. ママもちびっ子もみんなしあわせお花プロジェクト
- 5. 子どもの地域社会参画と子どもの権利条約について大人と子どもが議論@ミニョコハマシティ
- 6. ほっとできる居場所づくり(障害のある若者を対象に)
- 7. 外国人向け情報提供、相談及び意見集約、日本語教育動画作成、生活実態調査事業 ※上記は5回目に受講生がプレゼンし、加えて、昨年度の受講生、1回目の登壇者4件の。

近況報告があった。

【参加者概要】

• エントリー総数:74名 (男性:35名、女性:37名、無回答:2名) 同意書提出済:14名





【個別相談】

- 4件4名が利用。
- 協働の取組みを考える前の、課題設定、組織づくりについての相談が多かった。

【受講生感想(抜粋)】

- 1回 ○講師の起動力、実行力に圧倒された。
 - ○協働のプロセスの明確化、可視化がされていた。
 - ○協働の楽しみと難しさを教えていただいた。
- 2回 ○手法先行ではなく、問題先行であるべき
 - ○自分たちやりたいことだけを主張するのででなく相手を理解することが大事。
 - ○社会的に不利な扱いを受けているひとたちの代弁をする」その役割も公益活動である というお話に納得した。
- 3回 ○「無いなら作ろう」「街は自分事:など心に刺さる言葉がたくさんあった。
 - ○とにかく動かないことには何も始まらないと思った。
 - ○横浜型「協働」と「共創」の定義が分かった。
- 4回 ○小林さんの「反対しない」「新しい価値をともにつくる」、岩室さんの『広げることは大事」「反対意見は参考になる』が特に今の自分に刺さった。
- 5回 ○発表することで自団体の強みや協働のアプローチの為の準備が整理できてよかった。
 - ○どの発表者も想いを具体的な活動につなげようとしていて、地域が秘めた力の大きさ を感じた
 - ○多角的な視点で、自分が行いたいことを客観視できることができた。
 - ○たくさんのコメントをいただき、今後につなげたい。

【来年度に向けての振り返り(課題・展望)】

- 昨年に続き、受講生から「受講生同士のコミュニケーション」を求める声が多かった。スピン オフ会の実施など工夫すること。
- 会場と講師の調整から、セミナーの実施が間が空いてしまった。早めのスケジュール確保が望ましい。
- 各回参加が可能なのは良いが、フォームの改善が必要。プランを発表する人、しない人の混在もあってよい。
- 市職員に共有したい内容がたくさんあったので、いろいろ手立てを工夫して参加を促したい。 (市民協働推進課)

【担当者所感】

- 条例の周知、協働提案事業へのエントリーにすぐに効果があったとはいえないが、継続していくことで、啓蒙がなされていくと思う。
- 提出されたプランには内容のばらつきはあるものの、「協働」に関心を持つ層の広がりと、多様性が見られた。それらへのフォローも行いたい。
- 次年度は、組織・団体のうち次世代育成に関心があるところ、それらと接点を持つ中間支援的組織や区民活動推進センタースタッフにも参加を促したい。

9

⑥ 協働を促進するスペースの活用

【現状分析】

- 徐々に推進センターの機能が知られるようになったものの、利用の要件のハードルがまだ高く、団体登録の件数はあまり伸びていません。
- 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、スペースの利用について積極的な呼びかけを行いにくい状況が続いています。
- スペースABは占用利用やアトリウム一体利用の予約が増え、昨年度に比べ稼働率が高くなっています。

【事業実施内容】

協働ラボ

利用のハードルを下げるため、2021年8月より登録団体による予約制を導入しました。 また、2022年1月より登録団体であれば協働プロジェクトにかぎらず内部の打ち合わせでも 使用できるように運用を見直しました。

· スペースA・B

利用のハードルを下げるため、協働ラボと同様に2021年8月より登録団体による予約制を導入しました。

昨年度に引き続き、アトリウム一体利用と占有利用の2つの場合があるため、アトリウム事業者と管理方法について適宜相談して運営しました。

オンラインイベントの配信会場となることも多いため、ネット環境の改善を行いました。

- 昨年度に続き、協働ラボおよびスペースA・Bにおいて「ココロはずむアート展」の作家たちの作品の展示を行いました(作品の入れ替えを4回実施)。
- 名刺サイズのQRコードではなく、各種パンフレット (③ 協働に関する情報の蓄積と活用、ホームページ・SNS・情報誌等による発信の頁参照) にホームページへのQRコードを入れ、配架・配布しました。

【事業の成果】 2021年4月~2022年2月の集計

協働ラボ

利用者数:3,364人 利用件数:324件

スペースA・B

利用者数:3,632人 利用件数:252件

• 登録申請団体数:115件

※緊急事態宣言発令を受けて、8月2日~9月30日の期間は新規の予約および利用受付を停止しました。

【事業の成果】

• 緊急事態宣言解除後、アトリウムでのイベント等で市庁舎1階の賑わいが戻り、通りすがりにチラシラックのチラシをとっていく人が増え、後日相談に結び付くケースも見られました。また、対面での相談対応や打合せを再開した期間には協働ラボの利用が増えました。スペースA・Bのイベントによる占有利用が増えたことで、備品の故障等が起こるようになりましたが、管理課や推進課と連携しながら対処できました。

【来年度に向けて】

• 協働ラボ、スペースA・Bをより多くの方に使っていただけるよう年度末に運用方法を見直したので、それを周知し、様々なセクターの方が集まり自然と情報交換が生まれるような場所にすることを目指します。

【担当者所感】

• 引き続き感染症対策を行いながら、協働ラボ、スペースA・Bの利用促進を図っていきます。

10

⑦ 市民活動支援事業 (講座の開催等)

【現状分析】

- 団体運営の基盤となる、会計や労務の基礎的な知識やスキルの習得に向けてセミナーを開催することで、団体による運営・活動の安定や継続に資する学びの機会がつくることができました。
- NPO法人の設立については、セミナー形式でなく、平場のサロン形式で実施したことにより、 参加者同士の交流を含めて実施することができました。

【事業実施内容】

① "ポストコロナの"参加の場の開き方~困っている時こそ、「自分」から始めるストーリー~ 【開催日/会場】 8月28日(土)および9月9日(木)/オンライン(Zoom)

【内容】講演、ワークショップ・全体交流を実施(講演:坂倉杏介氏(東京都市大学准教授)、進行:佐藤)。

② よこはまNPO会計セミナー

【開催日/会場】 9月21日(火)、10月5日(火)10月21日(木)11月5日(金)/第1・2回オンライン(Zoom)、第3・4回ハイブリッド(オンラインおよびスペースAB)

【内容】講義・演習による、NPO法人の決算作成に向けて必要な簿記の知識・スキル習得、および、事例から学ぶNPO法人における具体的な会計業務の実践

(メイン講師:石原氏、サポート講師:宮崎氏、事例発表:認定NPO法人こまちぷらす、認定NPO法人市民セクターよこはま)

③ よこはまNPO労務セミナー

【開催日/会場】 1月20日(金)および2月1日(火)/オンライン(Zoom) 【内容】講義(第1回・第2回)および事例発表(第2回)(講師:飯田剛史氏(社会保険労務士法人ことのは代表)、事例発表:NPO法人ちょこっといずみ、認定NPO法人市民セクターよこはま)

④ ヨコハマミズベサロン

【開催日/会場】 12月10日(金)、1月20日(木)、2月10日(木)/第1回は協働ラボで実施、第2・3回はオンライン(Zoom) ※第2回夜の部は申込少数のため実施なし 【内容】センターからの情報提供、事例発表、交流・ディスカッション

【事業の成果】

- ① "ポストコロナの"参加の場の開き方~困っている時こそ、「自分」から始めるストーリー~ 【参加者数】計45名(第1回:23人、第2回:22人)
- ② よこはまNPO会計セミナー

【参加者数】計31人(4回連続講座で延109名出席)

③ よこはまNPO労務セミナー

【参加者数】計43名(第1回:38名、第2回:34名)

④ ヨコハマミズベサロン

【参加者数】計23名(延べ人数)(第1回:9名、第2回:4名、第3回5名)

【事業の成果】

• オンラインに切り替えてイベントを開催したことにより、日ごろイベントに参加できなかった子育て中の方が視聴し後日相談に訪れたり、動画をアーカイブとして残すことでリアルタイムで参加できなかった方へ内容を届けることができました。

【来年度に向けて】

• イベント参加者名を協働関心層データベースとして蓄積。継続的な参加を促し、アフターフォローや動画配信等を通じて戦略的に協働コミュニティ形成を行っていきます。

【担当者所感】

• イベント開催後の交流の時間をつくり、コミュニティが形成されるようオンラインを活用した場づくりを積極的に作っていきます。 11

8 中間支援機能の強化に向けた

各区の市民活動支援センター支援事業

現状分析

- 各区のセンターと市・区の所管部署、当センターが、今後の各区の支援センターの在り方や担う機能について共有し、ともに取り組むことを目指しています。また、ポストコロナを見据え、事業実施の方法や団体へのアプローチ方法を模索しており、オンラインツールの活用やイベントの開催方法の工夫をしているセンターもあります。
- コロナウィルス感染拡大が長期化し、活動団体・個人による取組みが停滞することは、 地域の方たちの参加やつながる機会の減少にもつながることから、区センターとしては、 課題やニーズの現状把握に基づいた事業展開や、今必要とされている方策の実施、など が昨年に引き続き求められている状況です。

【事業実施内容】

1 ネットワーク会議の実施

<第1回> 6月11日(金)

「各区の市民活動支援センターの目指すものと担当職員に求められるもの」 参加人数:39名(担当職員:3名 センター職員:5名)

<第2回> 11月10日(水)

「ポストコロナを見据えた連携・協働の進め方~ステップ1・2・3~」

参加人数:35名 (担当職員:3名 センター職員:2名)

<第3回>

「語り合おう!支援センター運営のエトセトラ」

参加人数:26名(担当職員:3名 センター職員:3名)

2. 各区のセンターからの日常的な相談への対応:2件

(内訳)

- ・施設間連携会議開催にあたり、Zoom支援(旭区:11/26)
- ・施設間連携会議開催にあたり、Zoom支援(港北区:12/9)

【事業の成果】

• 第2回ネットワーク会議では、第1回での事後アンケート結果を反映し、スペースABで集合形式での会議を実施しました。連携・協働の進め方についての講義を元にワークをしましたが、各区ともワークの中で自区の事例発表をし、区同士のつながりもできていました。また、第3回では、ワーク第2回でのアンケート結果より、各区の事例をより多く持ち帰り、共有できるワークを行いました。

【来年度に向けて】

• 各区センターが対象としている団体や個人の活動に寄り添いながら活動を支援していくマインドや、地縁団体等との連携拡大を目指した動きを応援・後押しするような機会を提供していきます。そのためにも、年間を通じた計画を年度当初に作成する必要があります。

【担当者所感】

• 区センターの状況、取り巻く環境は今年も変化しています。ネットワーク会議の対象職員の幅が広い上、社会の状況も変化する中で、これからの区センターの在り方や機能を検討し推進センターとして何に注力するか、考える必要があると考えます。

12

横浜市市民協働推進センター 2021年度 市民公益活動緊急サポート事業

市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体 横浜市市民局協働推進課

市民公益活動緊急サポート事業

【現状分析】

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う活動の制限によって、長期間に渡り大きな影響を受けていることから、市民活動団体が事業・実施方法の見直しを図っています。
- 上記は団体によって差が大きく、市民活動の継続に向け、多側面でのサポートが必要な状態が続いています。

【事業実施内容】

- 市民の暮らしを支える公益性の高い活動を支援するため、市民協働推進センターにコーディネーターを配置しました。令和2年度に実施した、市民公益活動緊急支援助成金の申請団体や相談のあった団体等へ、下記のサポートを行いました。
 - コロナ禍での活動等に関する相談への対応
 - 質問、回答内容のデータベース登録
 - 市民公益活動等を行う等の取組へのコーディネート
 - 本事業による取組事例等のHP発信

【事業の成果】

- 相談件数:31件(2月末時点)コロナ禍で団体や対象者に生じている状況が相談内容に影響していると思われるものがありました。コロナ禍での影響が長期化する中で、団体の運営や活動に関しては、資金や活動場所の確保などが困難となり相談に至るケースが見受けられます。また、コロナ禍において、例えば子どもなどの対象者に生じている困難から、新たに地域活動を始めよう、団体の立ち上げようと考える方たちの動向も見られました。
- 取組事例等の発信:6件 2021年度の取組状況のHPやSNSでの発信有無を調査し、下記6団体に取組の聞き取りを行い、ノウハウ共有のため発信しました。
 - 1. 【福祉/都筑区】NPO法人 都筑ハーベストの会「畑を使った地域との交流事業 |
 - 2. 【子育て/港南区】ひだまりの森「オンライン相談導入事業」
 - 3. 【学習支援/栄区】ユッカの会「オンラインによる学習支援事業」
 - 4.【音楽/泉区】音楽スペース おとむすび「歌声サロン等の音楽サークル活動|
 - 5. 【食/青葉区】 NPO法人スペースナナ「フードドライブとフードパントリーの活動 |
 - 6. 【環境/西区】NPO法人海辺つくり研究会/「海辺活動の再開に向けたIOTツールの活用し

【来年度に向けて】

• 今後も感染症の影響を受けての相談が、継続していくことが考えられます。これまでどのような対策をしてきたかによって支援内容が異なるため、今後も適切な助言・コーディネートに努め、活動の継続と事業展開支援を実施していきます。



管理運営:認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

2021 年度運営方針と成果

約2年続いている新型コロナウイルス感染症に、社会が大きく影響を受けました。思うように活動ができない状況がある一方、新しい生活様式やオンラインの活用も広がり、これまでなかったつながり方や出会いが生まれました。昨年に引き続き、オンラインの活用を含め、つながりを保つ&つながりを生むことが大事と考え、2021年度は「今だからこそ"つながりづくり"」をテーマとしました。区民が主体的・積極的に参加する機会を創出し、停滞していた様々な活動が活性化するよう、また、新しく生まれるよう、積極的に働きかけ、事業を進めました。

- ●日頃のつながり、身近なつながりを考える機会として、講座を開催したり、情報発信を工夫しました。
 - ・地域仲間、住んでいるまちでの活動、といった視点をテーマとし、講座を開催しました。自分にとって必要な「つながり」の具体的姿を描く機会となりました。
 - ・情報紙のテーマに「つながり」を反映するとともに、掲載される方々同士、また読者ともつながる場を設定しました。直接出会い、話すことで、いくつもの多様なつながりが生まれ、活動の広がりを見せていました。
- ●活動者・団体相互の対話の場づくりを行い、活動の活性化を促しました。
 - ・興味ある者同士、その回のテーマに沿って、ゆるやかに自由に話ができる場を設け、つながりづくりのきっかけとしました。それまで知らなかったその方の興味や活躍の一面を知り、仲間となるよい機会となっていました。テーマは、活動者・団体の意向や利用者の声を反映したものとし、テーマをきっかけに活動の新たな仲間や広がりが生まれることもありました。
 - ・活動者・団体の交流会の回数を増やし、年3回実施しました。昨年度のアンケート結果を反映したテーマ設定をし、学びつつ交流できる場としました。年度末の大交流会では、登録者のほか地域大修了生なども対象とし、相互に知り合い、つながりが生まれる場となりました。
- ●施設等と連携し、オンラインツールを活かした新たな参加の機会をつくりました。
 - ・オンライン環境が整った自治会や施設と連携し、講座をサテライトで実施しました。 にしとも広場に来るのが難 しい地域の方にも、身近な場所で講座に参加していただくことができました。
 - ・自治会館を会場とする場合は、現地でのオンライン環境等の設定も支援しました。

事業ごとの報告



1. 相談事業

◆ 相談機能の充実と日頃の会話から相談につなぐ

相談の基本を大切にし、誠実に一人ひとりと向き合い、その方の真のニーズを引き出す力、課題に向き合う力を日々の実践や研修で高め、職員の相談力向上を目指しました。また、地域の施設や関係機関と連携を深め、ニーズに即した情報の提供を目指しました。特に今年度は今までの生活が困難な状況にあり、出会いの場も少なくなっていることから、利用される方々との会話にも気持ちの共有ができるようなコミュニケーションを心がけました。

1) 相談機能の充実

- ・ 活動団体、地域、個人からの様々な相談は、「関わりシート」や Slack に記載し、職員間で共有・検討し、 継続的な対応を行いました。
- ・ 必要に応じて関係機関や施設等と連携を取り、相談者にとってより良い支援になるよう心掛けました。
- ・ 「はじめの一歩じっくり相談日」「団体運営なんでも相談日」等テーマごとの相談日を設け、相談しやすい環境を整えました。

2) 相談力の向上のための取組の実施

- ・ 職員全員で行う会議において定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の気になる事例をピックアップして情報を共有し、よりよい対応につながるよう内容を検討しました。
- ・ 職員研修として、相談対応における基本の再確認と、相談者の思いを受け止め、相談者ご自身が活動を進めていける支援について学びあい、相談対応のブラッシュアップを図りました。

時間·場所	テーマ・内容	
7/28(火)	職員研修「希望が丘駅周辺における人・まちづくりの推進に関する調査報	
10:30-12:30	告書から読み解く地域支援」	
受講者:職員5名	講師/市民セクターよこはま 事務局長 吉原明香	

- ・ 活動団体、地域住民の方と一緒に学ぶ研修【知っておきたいシリーズ】を開催し、共に学びながら基礎知識を 高め、スキルアップにつながる機会を創りました。今年度は「傾聴」「救急救命」を取り上げました。感染拡大防 止の観点からソーシャルディスタンスを保ち受講人数を限定しました。
- ・ 第 3 回は地域の医療機関による「こころのクリニック」を予定していましたが、コロナ感染拡大のため開催できませんでした。

【知っておきたいシリーズ】

時間·場所·参加者	テーマ・内容	
12/10(金)	『傾聴』~こころを聴いてみる~	
13:00-15:00	講師:NPO 法人アーモンドコミュニティネットワーク	
@にしとも広場	理事長 水谷裕子さん	
	丁寧にその人に向き合い、しっかりと話を聴き、相手を深く理解すること、	
受講者数:13名	自分自身の心の変化も含め、傾聴の基礎を学びました。	
	講座終了後、学びを深めたいと自主企画のグループが生まれました。	
1/11(火)	『いざという時役立つ 救急救命』	
13:00 - 15:00	講師:一般社団法人 EMR 河波弘晃さん	
@にしとも広場	感染予防を行いながら、基本的な心肺蘇生法や、AED(自動体外式除	
	細動器)の操作を学び、感染予防の基礎、緊急時の対応について実例	
受講者数:11名	を通し具体的に学びました。	









〈 傾聴講座 〉

〈 救急救命講座 〉

2. 情報提供·発信事業

◆様々な情報提供のツールを使い、定期的、多面的に情報を発信

昨年度に引き続き、当センターの持つ情報や当センターの周知をさらに促すために、3 つの紙媒体を活用しました。また、日常のお知らせについて、フェイスブックとホームページを併せて活用しました。

1) 情報紙『にしとも広場』(カラー冊子·全 8P)の発行

- ・ 年2回(9月 3,500部 2月 3,500部)を発行しました。
- ・ 各号、西区で活動をしている方、これから活動を行いたい方に、テーマごとに集まっていただき、活動の原点や想いについて話し合いました。互いの活動を見学し、コラボレーションの機会を検討することで、活動者同士がつながりあう場となりました。

<特集内容>

●第 18 号:「つながりはひろがる」

「馬」と「食」の2つのテーマを設け、それぞれのテーマごとに対談を行い、互いの活動先を見学しました。連動企画として、「この人の話をきいてみたい!」座談会を企画し、掲載者に直接会い、話をきき、つながりをさらに広げる機会となりました。

時間·参加者	テーマ・内容	
11/7(日)	「この人の話をきいてみたい!」座談会	
13:30-15:30	プログラム	
参加者:17名	●掲載者の活動紹介、参加者の自己紹介	
(掲載者6名含む)	●フリートーク	
	アンケートより	
	・集まられた方が皆さん自然体でお話ししてくださってとても参考になりました。	
	・どのようなお話しか、自分に何ができるのかと思いながら参加させていただきました。	

●第 19 号:「好きな世界からつながる まちのアート作家 5 人の出会い」
西区内でアートの活動をする方に集まりいただき、互いの活動紹介やアート活動を通じて目指していることについて話し合いました。次年度の4月・5月の企画へとつながりました。

時間・場所	テーマ・内容	
(予定)	にしとも広場のかべに鯉のぼりをつくろう!/4月23日(土)~5月21日(土)	
2022年	はっぱのトートバックをつくろう/4月29日(金・祝)10時~11時半	
4月23日~	葉っぱと粘土で飾る オリジナルフレーム/4月30日(土)10時~12時	
5月21日	ヒンメリ花飾り/5月5日(木) 14時~15時半	
	オリジナルマグカップ&お花をいけよう/5 月 7 日(土)①10 時~11 時②12 時~13 時	









〈18号〉

〈18 号連動企画 〉

〈 19号 〉

〈 19 号連動企画 〉

2) 簡易版情報紙『にしとも広場 mini』 (カラーA4 両面印刷) の発行

- ・ 表面にはトピック・お知らせ、西区街の名人達人の「来て見て聞いての日」を、裏面にはにしとも広場のイベントカレンダーや自主事業の活動などを掲載し、年4回(5月、9月、12月、3月)発行しました。
- ・ 写真やイラストなどを効果的に使用し、分かりやすく、インパクトのある紙面づくりに努めました。









〈19号〉

〈 20号 〉

〈 21号 〉

〈 22号 〉

3) フェイスブックでの情報発信

- ・ わかりやすいテーマの事業については、Facebook 広告を利用することで、 集客につなげました。
- フェイスブックページへの「いいね」数:729件 2022/3/31(参考:534件 2021/3/31)

4) ホームページでの情報発信

- ・ 地域やにしとも広場で開催されるイベント情報やボランティア募集情報などの 情報発信を行いました。
- ・『にしとも広場 mini』など紙媒体では、Q Rコードを掲載し、ホームページの存在をアピールし、フェイスブックと連動させるなど、ホームページへの誘導を行いました。また、イベントページについては、気軽に申し込みいただけるよう、ホームページの申し込みフォームを毎回設定しました。

5)にしとも広場アート展

- 11/1~11/26 の約 1 か月間、にしとも広場ミーティングスペースにおいて、アート展を開催しました。登録団体によびかけたところ、16 団体が参加し、アンケート回答者には寄付作品をくじ引きでプレゼントし、130 名の方にご回答いただきました。
- ・ 出展作品:水墨画、油絵、こぎん刺し、おりがみ、写真展示「横浜を探せ」等









6)展示スペースの活用

- ・ 西区街の名人・達人の登録者の「プロフィール写真会」を実施し、撮影したプロフィール写真を一定期間展示しました。
- 季節にあわせた飾りを展示しました。施設利用者が飾りづくりに参加し、皆で作り上げる展示となりました。
- 季節に合わせたパッチワークなど、得意なことを活かした展示に協力いただきました。
- ・ 障がい者施設の方が毎月持ってきてくださる作品も、ご本人了承のもと展示しました。







7) 他機関・施設による外部メディアの利用

- ・ 記者からの取材先紹介依頼への対応や、登録団体の自主企画などの紹介を行いました。
- ・ 団体 mini 交流会に、広報活動のゲストスピーカーを依頼し、その交流会の中で活動についての紹介動画作成となり配信されました。

掲載いただいた外部メディア等

- ●広報よこはま
- タウンニュース・YCV・はまかぜ新聞
- ●横浜市協働推進センターメルマガ
- ●西区内施設へのチラシの持参、配架依頼





3. 活動団体のマネジメント支援および、ネットワーク支援事業

<1> 地域人材ボランティア事業『西区街の名人・達人』

1) 新規登録の促進

- ・ 活動披露の場等を通じて当事業の周知を行い、地域人材ボランティアとして活動を始めるきっかけを創りました。
- ・ 活動自粛の中でも機会を見つけ新規登録の呼びかけを行い、活動の活性化や地域の方々の選択の幅が広がるよう支援しました。
- ・ 活動自粛が続く中でも、地域に貢献したいと、人材ボランティア登録の希望がありました。 ◇西区街の名人・達人登録数 151 件 (2022 年 3 月末現在。昨年同月 143 件)

2) 『西区街の名人・達人』のコーディネート

・ 非常事態宣言の発令などでイベント等も激減し、活動そのものの自粛が続きましたが、小学校総合学習の講師、地域訓練会でのマジック、みなとみらい自治会での新春コンサートなど、活動の場の拡がりを支援しました。

・ コーディネートの相談があった際は、単なるコーディネートにとどまらず、相手のニーズに加え、実施環境(場所・ 施設)についても丁寧なヒアリング、安心して活動ができるよう心掛けました。

◇コーディネート数 29件(2022年3月末現在。昨年同月9件)

3) 『西区街の名人・達人』の活動披露の場づくり

- ●音楽関係については「音楽の日」や「来て・見て・聞いての日」の出張コンサートなど、活動を披露する場を計画していましたが、コロナ禍で歌うことや演奏が難しく、今年度は開催できませんでした。
- 「うたごえ広場」 (オンライン)

会場で一緒に歌うことが難しいため、わかりやすいように歌詞をつけ YouTube 配信を行いました(9/20)。 また、1/17 は、第 4 地区会館をサテライトとして結び、地域の皆さんも楽しむ予定でしたが、感染拡大防止のため中止となりました。

●「来て・見て・聞いての日」

感染拡大防止運営基準を反映し、利用定員は 10 名を上限としました。オンライン開催が難しいものも多く、参加希望が多い企画については、講師と相談の上、複数回の開催や別会場を準備するなど、参加の機会を増 やし対応しました。

日付	イベント名	人数
4/10	スマホフォト講座	10名
5/22	エンディングノート	9名
6/25	大人のバレエストレッチ	9名
7/24	子ども科学捜査①	10名
7/24	子ども科学捜査②	10名
8/1	食べ物のゆくえと体のしくみ	10名
9/18	心と体の楽しい健康ストレッチ (台風のため中止)	0名
9/19	子ども工作教室(緊急事態宣言発出中止)	0名
10/14	体をほぐすヨガ	6名
11/19	干支の年賀状~寅~	10名

日付	イベント名	人数
12/4	クリスマススワッグを作ろう	14名
12/4	クリスマスリースを作ろう	17名
12/5	干支の年賀状~寅~	9名
1/15	常磐津節三味線	29名
2/5	スマートフォン講座	16名
3/12	親子で楽しむ!ペンシルバルーン	24名

参加者:183名(2022.3)



スマホフォト講座



子ども科学捜査



クリスマススワッグ



ペンシルバルーン



大人のバレエ



常磐津節三味線



干支の年賀状

4) 『西区街の名人・達人』のホームページ掲載情報の更新

・ 新規で登録があった時は、速やかにホームページの検索データベースに追加するとともに、ホームページでも紹介しました。

5) 『西区街の名人・達人』ガイドブックの活用

- ・ PTA や町内会などの新たな役員の方には、説明と共にガイドブックを配布し、登録者の活動について周知を行いました。
- ・ 各小学校へ配布したガイドブックを通じて、小学校総合学での講師依頼があり、地域振興課と連携し、コーディネートを行いました。

6) 『音楽ボランティア講座』を開催

音楽ボランティア活動者の「ノウハウを伝えたい、つながりをつくりたい」という思いを、共催という形で実現しました。「基礎編」「活動編」「実践編」の全 3 回の講座を行い、15 名の方が修了しました。

講座終了後は、地域デビューに向けての伴走支援を行いました。

	プログラム	講師	内容等
9/11	導入編	一座にしエイチファイブ・竹下幸子氏(プラチナ倶楽部)	音楽ボランティアについての基礎を学ぶ
10/3	活動編	一座にしエイチファイブ、フルール、La seed	活動団体事例から活動の実際を学ぶ
11/6	実践編	一座にしエイチファイブ・オオノシン氏(にしく名達の会)	3 グループによる演奏披露
12/8~ 5/14	デビュー&活動 サポートプログラム	一座にしエイチファイブ	自主グループを作り、コンサートデビュー するまでのサポート

<2> 登録団体

1)登録の呼びかけと活動支援

- ・ 活動自粛が続く中、団体活動の現状や必要なニーズを把握し、今後の活動が、より潤滑で広がりをもつよう支援を心掛けました。
- ・ 掲示板にお知らせ欄を作成し、登録している団体のイベントを掲示、来館の方へ紹介し周知を行いました。
- ・ にしとも広場を会場として定期的に行う自主企画の活動の一覧や、月ごとの活動日が一目でわかるようカレンダー形式で紙面を作成するなどの工夫をしました。
- ・ その結果、今年度の新規登録団体数は 14 件となりました。 (昨年度新規登録件数 1 件)
 - ◇団体登録数 184件(2022年3月末現在。昨年同月197件)
 - ※登録更新結果は2021年4月に反映:更新後の登録団体170件

2) 団体のステップアップにつながる講座の開催

・ 活動の情報発信につながる講座「届けたい人に伝わる、活動発信のコツ」、「みんなどうしてる? SNS の活用」を西区街の名人達人&登録団体の mini 交流会に合わせて開催しました。

3) 登録更新/ガイドブックの発行

- コロナ禍のため、更新にあたっての直接のヒアリングは難しく、現在の活動状況やにしとも広場へのご要望などを近況報告書でお知らせいただきました。
 必要に応じ、追加の聴き取りなどを行い状況を確認し、内容によっては相談対応を行いました。(2020年/12~1月実施)
- ・ 「西区グループ・団体ガイドブック」を発行し、活動団体の周知、来館者への 相談対応にも活用しました。
- ・ ホームページに更新した登録情報を掲示し、活動紹介や周知に活用しました。



4) 西区街の名人達人&登録団体 mini 交流会(2回)、交流会

・ 活動の自粛が続く中、団体の交流会とはかるとともに、パワーアップにつながる活動のヒントや工夫を共有しました。12月・3月はオンラインで実施としたため、普段にしとも広場を利用する機会が少ない方も参加いただき、新しいつながりや展開のきっかけとなりました。

時間·場所·参加者	テーマ・内容	
9/4 (土)	mini 交流会 「届けたい人に伝わる、活動発信のコツ」	
13:30-15:30	活動を広げるための情報発信について、タウンニュース、ケーブルビジョンのお二	
参加者:19名	人との交流を通じて、理解を深めました。	
	ゲスト: (株) タウンニュース社 横浜中央支社	
	中区・西区編集室 清田義知さん	
	横浜ケーブルビジョン株式会社	
	コンテンツ部 制作・情報チーム 元波玲子さん	
12/17(日)	mini 交流会「みんなどうしてる? SNS の活用」	
14:00-16:00	SNS を活用して、仲間を増やし、交流を広げる工夫について、NPO 法人	
参加者:7名	icocca(港南区)の取り組みから学び、情報交換を行いました。	
オンライン	ゲスト: NPO 法人 icocca(いこっか) 鳥海 さん・池田さん	
3/27 (日)	「にしとも広場春の!大交流会」	
14:00-16:30	・西区役所、にしとも広場からの事業紹介、参加者自己紹介ののち、少人数	
参加者:22名	のグループに分かれて交流を行いました。	
オンライン	・対象を西区グループ・団体、西区街の名人・達人に加え、西区地域づくり大	
	学校修了生、音楽ボランティア講座修了生にも案内を行いました。	
	・グループワークのテーマ : 「2021 年活動で取り組んだことのなかで良かったこ	
	と、つながったこと」「2022 年活動でやってみたい事・チャレンジしたいこと」	

<3> 西区スタイルへの参加

- ・ 感染拡大防止対策のため、西区民まつりは中止となり、今年度は「西区スタイル」(2021 年 12/13~2022 年 1/28)に協力、参加しました。
- ・ ブース出店(1/17(月))

- ・ 期間中広報資料配布、139 セット アンケート実施 回答 112 名
- ・ にしとも広場ではくじ引きを実施し、西区内の作業所で制作されているクッキーや居場所で販売している菓子を 景品としました。







4. 地域支援事業

◆ 地域で活躍する人材の掘り起こしと養成

当センターに来館される「何かをしたい」「何ができるだろうか」「活動したいがどうしたらよいかわからない」というような思いを活動につなげるきっかけづくりをし、地域での活躍を促しました。

1) 講座「わたしのいるまちで地域仲間をつくろう!」

日頃のつながりが防災につながること、安心できるなじみの場が身近にあること、西区での暮らしについて考える 講座を実施しました。

日時·場所·参加者	内容
9/12 (日)	講師:NPO法人孫育て・ニッポン理事長
10:00-12:00	ぼうだあきこ氏
@にしとも広場	内容:
参加者数:17名	■講義
(会場8名・オンライン9名)	■クロストークタイム
	「どんな地域仲間をつくりたい?地域仲間を増や
	すために何をしてる?」

<アンケートより>

- ・ 子育て支援、みんなのサロンを開いているが、自分が楽しんでやっている活動を楽しみながら他の団体とのつながりを大切にしている。わたしは違っていなかったと思った。良いお話しを聞くことができた。
- ・ 自分の経験、スキルを活用し、仲間をつくり、自分のできること、できないことを仲間にきちんと伝え、協力できる 環境をつくりたい。もう少し近所の方々に頼りたいと思った。
- ・ 人が生きている中で、年を重ね、社会とのかかわり方がことなることを表でわかりやすくあらわされていて、 できることの内容やその時の気持ちなど面白くお話しされたところがよかった。

000の活動

ことを始めたい方!一歩を踏み出しませんか

2) 講座「住んでいるまちで〇〇〇の活動を始めよう」

場づくりの基本的な考え方について学び、活動を行っていくうえでの情報発信の方法や助成金等の活用の考え方について学びました。後半の交流タイムでは、既に活動を行っている方と、これから地域活動を始めたい方が意見交換を行うことで、つながりが広がりました。

日時·場所	内容	
1/29 (土)	講師: NPO 法人れんげ舎 代表理事	d
13:30-16:30	長田英史氏	
@にしとも広場		Q
受講者数: 21名		1.)
(会場 5名、オンライン 16名)		

<アンケートより>

- ・ 個人で考えて文書にするとアイディアが広がりすぎることがあるが、講座で書いた内容はポイントが明確なため参考になった。
- ・ 一年間地域づくりを活動してきて色んな方と知り合い、議論を重ねて来た中で出てきた課題を解決に近づける ヒントとして、参考になったことを振り返ることができた。
- ・ 準備、振り返りの見直し。ほかの人もしっかり巻き込み、場が独りよがりになっていないか磨きこむチャレンジする ことが印象に残った。また、個人的に紙媒体での発信も考えてみたい。

3) 「第10期西区地域づくり大学校」

- ・ 本講座は、①講座後もつづく仲間づくり、②少人数制の連続講座、③講座終了後も"にしとも広場"が継続的に受講生を応援することを特徴とし、全4回を区政推進課と協働で開催しました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症による生活様式の変容により、住んでいる身近な地域に目を向けている方が増えていることを背景に、テーマは「仲間と出会って地域のつながりづくり」としました。
- ・ 定員 15 名としましたが、20 代から 70 代と、幅広い年代の 14 名にご参加いただきました。 (内訳: 20代1名、30代1名、40代5名、50代5名、60代1名、70代1名)
- ・ 講座終了後は区役所と連携し、丁寧なフォローアップ・コーディネートを心掛けました。その結果、にしとも広場 を利用した自主企画化や、既存活動団体への参加、地域の学校施設のボランティア活動等につながりました。



	日時·場所	テーマ・内容			
	10/23 (土)	『テーマ:にしくについて知ろう・今のくらしトーク』			
	13:30~16:30	・オープニング(開講の挨拶:寺岡洋志(西区役所区長)、受講生自己			
	@にしとも広場・オンライン	紹介、ガイダンス)			
		・講義:「西区のまちについて」			
1	受講者数:13名	西区役所区政推進課 課長 鈴木慶			
		・講義:「地域で活動をはじめよう!」			
		認定 NPO 法人市民セクターよこはま 事務局長 吉原明香			
		・分かち合いワーク			
	11/21 (日)	『歩いて知る!まちの魅力再発見』			
	Aコース:4名	A コース 訪問場所			
		ディアナ横濱 、ふれあい広場 フードパントリー、NPO 法人 Umi のいえ 、			
2	11/28(日)	西公会堂 (ふりーサロン5)			
	Bコ−ス:5名	Bコース 訪問場所			
	Сコ−ス:4名	CASACO、 野毛山荘、 第 4 地区社協			
		Cコース 訪問場所			
	12/11 (土)	藤棚地域ケアプラザ、 藤棚地区センター、 藤棚デパートメント			
	12/11 (±)	『テーマ:プランの実行に向けて準備しよう』			
3	13:30~16:00	・グループワーク : 「チャレンジプランを磨こう」 ・希望者個別相談会			
	@にしとも広場	・全体共有			
	受講者数:13名				
	2/5(土)	『テーマ・プランの振り返り&これからのつながりづくり」			
	13:30~16:00	・チャレンジプラン実践報告会			
4	@にしとも広場	・講義「受講生へのメッセージ:これからの活動に向けて」			
	受講者数:13 名	·修了式 ★ 修了者 14名			

<アンケートより>平均点 84点(100点満点中)

- ・ LINE グループができ、そこで、チャレンジプラン実現に向け協力体制ができたのが良かった。
- ・ 色々な活動や支援、ボランティアなど地域にいっぱいある事を知った。色々な思いを抱えて活動をされたり、 活動をバックアップして頂ける場があることもわかった。
- 「自分が楽しむ」凄く大切だと思った。
- ・ 具体的にプラン化、明文化する事により、アイディアがより具体的になった。

4) 外国につながる子ども対象 にしともるーむ

2018年度事業「日本語・学習支援ボランティア養成講座」の修了生が中心となり、2018年9月より学習支援教室「にしともるーむ」を開催しています。

(毎週火曜日 16:00~17:00 実施)

様々な国につながる子ども8名程度の小学生が通い、ボランティアの方と



マンツーマンで、宿題など自分に必要な勉強をしました。 2021/4~2022/3 実施回数 47 回

5) 好きなもん広場

西区で暮らす人や働く人の「好きなこと」「やりたいこと」「活動していること」をきっかけに、新しい出会いが広がることを目的として、参加者同士の対話を中心に毎月1回テーマを設け、実施しました(毎回1時間程度)。

日程	プログラム	参加人数
5/14	西区の好きなお店	5人
6/12	集まれ!絵本好き	6人
7/9	集まれ!歴史好き 鉄道編	5人
10/9	想いのある地について話そう	4人
11/12	子どもとお出かけスポット	0人
12/17	集まれ!風呂敷好き	4人
1/22	集まれ!特撮好き	5人
2/11	話そう!毎日の栄養・体の健康	5人





6) 意見交換会の実施

自治会町内会、センター利用者、地域人材ボランティア、区内関連施設などの方々にお集まりいただき、当センターの事業や役割について、また地域にある課題やニーズについてなど意見交換をしました。

日時·場所	参加者
1/25(火)	(以下9名)
16:00-17:30	西区第五地区自治会連合会 会長 平野 周二さん(Zoom)
@にしとも広場	西区第四地区社協 会長 米岡 美智枝さん
	藤棚一番街協同組合 理事(今井かまぼこ店) 今井 宏之さん(Zoom)
会場参加 5名	西区在宅介護者のつどいあけぼの会 代表 竹下 淳子さん
オンライン参加 4名	にしく名・達の会 会長 服部 和男さん
	NPO 法人西区はーとの会 理事長 三宅 義子さん
	生活創造空間にし 施設長 阿部 浩之さん(Zoom)
	西区子育て支援拠点 スマイルポート 森内恵さん (Zoom)

くご意見より>

- ・ Zoom を使って、にしとも広場の講座をサテライトスタジオとして聞くことができ、恩恵を受けている。地域大で見学に来た方がボランティアで手伝ってくれている。 こうしたつながりが嬉しい。
- ・にしともから生活支援センター西につながり、家族会につながったのを見て、本当によかったと思った。
- ・ コロナで食事会ができなくなって残念だが、にしとも広場での出会いがあり、活動に参加してくれる若い方ができた。 にしとも広場はかけこみ寺みたいな存在。

- ・ コロナの中でも工夫して運営されていたのに驚いた。自施設の研修も限られた人だけでなく、にしとも広場の関係者も引き込んでいきたい。
- ・ コロナは考え直すチャンスで、新しいことに挑戦する機会にもなったが、そう考えられる人がいるかいないか、町内会で温度差、活動の差が出てきたと思う。
- ・ 商店街でも変化は絶え間なく起こっていて、長い時間軸で見ていかないといけない。
- ・ 多世代の交流は、長期スパンでみても重要。にしとも広場の企画を楽しみにしている。
- ・ 地域大にオブザーブ参加し、子育てに関する数名の方とつながれた。西区は子育て世代がかなり多いが、支える 中高年が少ない。子育てサポートシステムの提供会員も少ない。にしとも広場と一緒に考えていきたい。
- ・ 安心、安全なまちづくりのための防災減災の講座なども一緒にやっていきたい。

5. 区・区民利用施設等との連携事業

1) 区民利用施設等との連携会議の実施(年1回)

地区センターやコミュニティハウスなど、情報共有の機会を持ちにくい施設もあるため、西区全施設が集う本会議は、貴重な情報提供・共有の場となっています。今年度は、地域に密着しているケアプラザを中心に地域の状況、 課題、ニーズを共有し、地域に向けてできることを考える機会としました。

日時・場所	内容
1/18 (火)	西区にこまちプランの課題認識共有
第1回/13:00~14:45	・各 CP が捉える地域の課題、社会資源、取り組み
戸部本町 CP・宮崎 CP	・できること、連携したらよさそう(フリーディスカッション)
第2回/15:00~16:45	【意見】
藤棚 CP・浅間台 CP	○地域支援のエリアやその地域毎の特徴、日々のご苦労など伺い、大変勉
	強になった。
@にしとも広場	〇おでかけ 3 について、宮崎ケアプラが、3 地区ではないけど急坂の地域でも
出席	欲しい、路線延長しない?と言ってくれたのがよかった。他のケアプラザの動き
第 1 回:14 施設·課 17 名	や地域のこともわかったのがよかった。
第 2 回:18 施設·課 21 名	○地域・エリアの話やケアプラザの事情や、福祉系施設と市民利用施設で得
欠席 1 施設(所属法人の会	られる情報ソースやラインが違うことよく分かった。連携してできることもあるだろ
合出席停止指示のため)	うし、発展的に考えて行けたらよい。
	○ケアプラザの方の活動をあまり知らなかったり、他地区の具体的な情報も少
	なかったため、今回の会議は大変参考になった。
	○「利用者にエリアはなく」施設側の意識改革も必要と思った。それに加え
	て、それぞれの地区内の情報や課題を抽出する事も必要不可欠な事と思う
	ので、近隣地区同士の情報交換の機会も多少あったらよい。
	○図書館では、地域の情報を直接得る機会が少ないので、今回の会議は
	大変参考になった。皆さんの話をききながら、図書館ももっと地域と関わるこ
	と、地域の情報を持つことが必要だと感じた。

2) センター事業における区内施設等との連携

●生活支援センターにし との連携

『リカバリープログラム』として、生活支援センターにしの利用者の方に登壇していただく講座を開催しました。 精神障がいの方の思いを知る機会と共に、利用者の方にとっては登壇することで自身の自信やステップアップにつながり、双方にとって開催意味のある講座となりました。今年度は家族会の方もディスカッションに参加され、当事者だけでなく家族の想いを知る機会ともなりました。

日時·場所	内容	π	かまのちからで 気になる 11 _月 27 _{日(土)}
11月27日(土)	参加者:生活支援センター西 利用者、	13	3:30~15:30
13:30~15:30	精神障害者家族会 もみじ会	ストレスが多い機代、機神 音事者の方とお勧ししなが 地域の中で自分らしく暮ら	標がいは、誰でもがなりうる身近を積がいです。 う、概要とよ考く付き合い、 すことについて、一種に考えてみませんか?
参加者:16名	当事者、支援者、地域の方	場 所:にしく市民活動	0名 オンライン20名 「者の方、ご家族、関係機関の方 対支援センター"にしとも広場"(西区役所18
(会場 10名、オンライン 6名)			5-620-6624) までに、右にある中込みコード、 (近み書でお中込みください。 (828-1 (173年) 4、人とつちがもかで見知になるという
	L	~ 2000 INCOAS	1887-

3) 地域振興課が実施する生涯学習・市民活動支援講座 運営支援

- ●地域振興課主催「スマホサポーター養成講座 |
- ・ にしとも広場に度々よせられる「スマホの使い方教えてほしい」ご要望を共有し、さらに施設訪問にて、地域でもニーズがあることを確認しました。
- 企画段階から都度連携し、プログラム作成に進みました。
- 広報、周知を連携して進めました。
- ・ 講座 1 日目に、ボランティアの意味・心構えや、サポーターとなった後の活動場所等を話し、受講者の具体 的な活動イメージにつなげました。

6. 施設環境への取り組み

◆ つながり・活動を育む、居心地の良い場へ

今年度は各地で出向ける場所が少なくなり、「行ける場所」の情報を探しに来られる方もみられました。 感染症対策をしっかり実施し、安心して立ち寄れる、ホッとする場所になるよう努めました。

ソーシャルディスタンスを保つため自ずと少人数開催になりますが、地域づくり大学校の参加者がにしとも広場を使ってミニイベントを開催したり、他施設で活動していた方が当センターでも講座を定例開催するようになったり、オンライン環境を活用して中継としたりと、活用の幅が広がりました。これまで以上に丁寧な対応や適切な情報提供、温かな場づくりを心掛け、「とりあえずにしとも広場に行ってみよう」、そう感じていただけるような、つながり・活動を育む場となるよう工夫しました。

1) 誰もが立ち寄りたくなる場づくり

- ・ 参加者同士が知り合える、何となく仲良くなれるきっかけづくりを心掛けました。
- ・ 地域人材ボランティアバンクの登録者の発表の場としても活用しました。

2) 居心地の良い環境づくり

- ・ 配架しているチラシの中から、おススメ情報をピックアップして、入り口の掲示板に貼り出しました。
- センターに立ち寄られた方に、センターを利用しての活動を積極的に呼び掛けました。

3) 施設内安全への配慮

- チラシ配架のラックの状態や、掲示物については画鋲が取れていないかなどを確認しました。
- 月に2回、日を定めて設備や機材を点検し、安心して利用できる環境とし、事故を未然に防止しました。
- ・ ウィルス感染防止対策として、手指消毒を常備、検温、来館者カード、利用者用のアクリルボードの設置を 実施しました。利用後は机等のアルコール消毒を行いました。

7. 職員配置体制・資質向上への取り組み

◆日頃からのコミュニケーションを大切に

職員個々のモチベーションはセンターの雰囲気にも影響します。日頃からのコミュニケーションを丁寧に行うことは、 職員間の人間関係や、センターの雰囲気づくりや居心地のよさにつながると考えます。今年度も参加できる研修は 少なくなりましたが、オンライン研修など、内外の研修に積極的に参加し、スキルアップと新しい視点を取り入れるよう 努力しました。

1) 現場訪問

- ・ 今年度も訪問できる機会は少なくなりましたが、可能な限り、市民活動や地域活動の現場に出向きました。
- これらを職員間で共有する機会を設け、相談対応力やコーディネート力のアップにつながるよう努力しました。

2) 相談力向上に向けた研修の実施(2ページに掲載)

3) 防災・減災、防犯、個人情報保護などに対応した研修の実施

- ・ 利用者がいる場合の地震や火災などの緊急時の対応や不審者が来た場合の対応を、職員会議等を通し学びました。
- ・ 個人情報保護に関する研修を全職員参加で実施し、さらに、日々の業務の中における情報漏えいを起こさない仕組みを全員会議で点検しました。
- ・ AED や心肺蘇生法の研修を実施し、救急救命の基本を再確認しました。
- ・ 西区総務課より、西区の災害発生時の区役所の役割や取り組み、防災に関する地域の状況など学ぶ機会を持ちました。

4) 他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

- ・ 横浜市市民協働推進センターが実施するネットワーク会議に参加し、他地域の先進事例を学びあい、積極 的に情報交換を行いました。
- ・ 相鉄沿線6区市民活動支援センター会議(年1回開催)は、今年度は中止となりました。

5) 外部研修への参加

- ・ 各職員が、自主的に、自らの成長に必要と考える研修に参加しました。
- オンライン開催の講座に積極的に参加し、オンラインならではの留意点や、進行方法などを学びました。

参加研修(抜粋)

開催日	研修名	主催等
6/3(木)	中学生、高校生、大学生それぞれのまちづくり	野毛坂グローカル
6/4 (金)	「市民活動のための『法人挌』研究セミナー	大阪ボランティア協会
8/8(日)	認知症サポーター養成講座 (オンライン開催)	港北区キャラバン・メイト 本間氏
8/28(土)	参加の場の開き方	横浜市市民協働推進センター
10/13 (木)	地域共生社会の実現に向けて	横浜市西区役所福祉保健課
10/13 (木)	若者をつなぎ まちを盛り上げるツボ	横浜市社会福祉協議会
12/17(金)	人材バンク事業活性化のための関係職員研修	横浜市社会教育コーナー

8. 西区役所との協働

1) 定例会議でお互いの成果や課題を丁寧に共有

・ 定例会議を月1回実施するほか、日常的にお互いの事業やそれに関わる情報を共有しました。

2) 協働契約書を締結し、センターの事業目的の共有と双方の強みを活かした運営の実現

- ・ 区役所と民間である当法人が協働で事業運営に取り組むことで、双方の強みを生かし、相乗効果が得られるような運営としました。
- ・ 地域振興課、区政推進課、当センターの3者で、次年度の各課の担当事業や役割、当センターの事業展開に関する方向性などを話し合いました。

3) センター運営に関する協働のふりかえりの実施

・ 年度終了後に、「協働に関する相互検証シート」をお互いに作成し、にしとも広場の運営を協働で取り組んだことに関してふりかえりを行いました。

以上

認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

2021年度

決 算 書

- 1. 活動計算書
- 2. 貸借対照表
- 3. 財務諸表の注記
- 4. 財産目録

(参考)予算·決算比較表

5. 監査報告書

法人名: 認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

活動計算書

2021年 4月 1日 ~ 2022年 3月 31日まで

(単位:円)

科目		金額	(中位,门)
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	202,000		
準会員受取会費 ************************************	20.000	000.000	
費助会員受取会費 2. 采版字(4.4.2.	20,000	222,000	
2. 受取寄付金 受取寄付金	163,701	163,701	
3. 受取助成金	105,701	103,701	
助成金収益	710,000	710,000	
4. 事業収益	110,000	110,000	
自主事業収益	20,019,858		
受託事業収益	82,462,451	102,482,309	
5. その他収益	, ,	, ,	
受取利息	549		
雑収益	26,700	27,249	
経常収益計			103,605,259
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費	10.000		
給料手当	42,292,832		
賞与	11,508,483		
法定福利費	7,321,460		
通勤手当 福利厚生費	1,936,801 498,838		
人件費計	63,558,414		:
(2)その他経費	05,550,414		
外注費	4,576,000		
講師謝礼金	7,263,187		
業務委託費	1,468,603		
顧問料	913,440		
旅費交通費	501,885		
通信•運搬費	2,689,528		
印刷製本費	2,369,924		
消耗品費	1,859,048		
消耗品(委託費支出)	163,350		
事務所家賃	2,523,503		
水道光熱費	127,356		
支払手数料 リース料	446,761 768,118		
保険料	2,680		
会場費	8,200		
イベント費	57,990		
研究•研修費	112,500		
広告宣伝費	2,164,500		
会議費	17,753		
新聞図書費	683,646		
租税公課	6,495,861		
交際費	21,315		
諸会費	98,280		
維費	576,000		
減価償却費	679,005		
長期前払費用償却	199,761		
その他経費計 事業費計	36,788,194	100,346,608	
学 未負巾		100,340,008	
2. 管理費 (1)人件費			

総料手当 法定福利費	かいてい	115 400]	ı
通勤手当				
大件費計 (2) その他経費				
(2)その他経費 業務委託費 顧問料 38,060 旅費交通費 通信・運搬費 27,166 印刷製本費 消耗品費 18,778 消耗品(委託費支出) 事務所家賃 105,145 水道光熱費 5,306 リース料 保険料 0 支払手数料 18,615 イベント費 接期前払費用償却 8,323 諸会費 4,095 養費 負倒繰入額(販) その他経費計 管理費計 経常費用計 当期経常増減額 II 経常外収益計 IV 経常外費用				
#務委託費		275,426		
顧問料				
が費交通費 通信・運搬費 27,166 印刷製本費 23,938 消耗品費 18,778 消耗品 (委託費支出) 1,650 事務所家賃 105,145 水道光熱費 5,306 リース料 7,758 保険料 0 支払手数料 18,615 イベント費 2,416 減価償却費 28,291 長期前払費用償却 8,323 諸会費 4,095 雑費 24,000 貸倒繰入額(販) 61,900 その他経費計 380,510 管理費計 経常費用計 380,510 管理費計 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 79,300 IV 経常外費用		· ·		
通信・運搬費 27,166 印刷製本費 18,778 消耗品費 1,650 事務所家賃 105,145 水道光熱費 5,306 リース料 7,758 保険料 0 5 1,465 対 で				
印刷製本費 消耗品費 消耗品(委託費支出) 事務所家賃 水道光熱費 リース料 保険料 の 支払手数料 イベント費 長期前払費用償却 表,323 諸会費 後倒繰入額(販) その他経費計 管理費計 経常費用計 当期経常増減額 III 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 IV 経常外費用				
消耗品費 消耗品(委託費支出) 事務所家賃 水道光熱費 リース料 保険料 りース料 保険料 支払手数料 イベント費 長期前払費用償却 表323 諸会費 長期前払費用償却 を費倒繰入額(販) その他経費計 管理費計 と常費用計 当期経常増減額 III 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 IV 経常外費用				
消耗品(委託費支出)				
事務所家賃 105,145 水道光熱費 5,306 リース料 7,758 保険料 0 支払手数料 18,615 イベント費 2,416 減価償却費 28,291 長期前払費用償却 8,323 諸会費 4,095 維費 24,000 貸倒繰入額(販) 61,900 その他経費計 380,510 管理費計 655,936 経常費用計 101,002,544 当期経常増減額 79,300 IV 経常外収益計 79,300 IV 経常外費用 79,300		18,778		
水道光熱費		1,650		
リース料 保険料 支払手数料 イベント費 減価償却費 長期前払費用償却 意会費 報費 貸倒繰入額(販) その他経費計 管理費計 当期経常増減額 7,758 0 18,615 28,291 8,323 4,095 61,990 61,990 380,510 世理費計 当期経常増減額 655,936 101,002,544 2,602,715 III 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 IV 経常外費用 79,300		105,145		
保険料 支払手数料 イベント費 減価償却費 長期前払費用償却 高会費 維費 登倒繰入額(販) その他経費計 管理費計 経常費用計 当期経常増減額 III 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 IV 経常外費用		5,306		
支払手数料 18,615 イベント費 2,416 減価償却費 28,291 長期前払費用償却 8,323 諸会費 4,095 雑費 24,000 貸倒繰入額(販) 61,900 その他経費計 380,510 管理費計 655,936 経常外収益 79,300 IV 経常外費用 79,300	リース料	7,758		
イベント費 減価償却費 長期前払費用償却 長期前払費用償却 諸会費 維費 貸倒繰入額(販) その他経費計 管理費計 当期経常増減額 2,416 8,323 4,095 61,900 61,900 61,900 380,510 管理費計 当期経常増減額 655,936 III 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 IV 経常外費用 79,300	保険料	0		
減価償却費 長期前払費用償却 諸会費 維費 貸倒繰入額(販) その他経費計 管理費計 経常費用計 当期経常増減額 III 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 IV 経常外費用	支払手数料	18,615		
長期前払費用償却 諸会費 雑費 貸倒繰入額(販) その他経費計 管理費計 当期経常増減額8,323 4,095 24,000 61,900 380,510管理費計 当期経常増減額655,936III 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 IV 経常外費用79,300	イベント費	2,416		
諸会費 維費 貸倒繰入額(販) その他経費計 管理費計 経常費用計 当期経常増減額 III 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 IV 経常外費用	減価償却費	28,291		
#費 24,000 貸倒繰入額(販) その他経費計 380,510 管理費計 655,936 経常費用計 当期経常増減額 101,002,544 当期経常増減額 2,602,715 III 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 79,300 IV 経常外費用 79,300	長期前払費用償却	8,323		
貸倒繰入額(販)	諸会費	4,095		
その他経費計 管理費計 経常費用計 当期経常増減額380,510経常外収益 資倒引当金戻入 経常外収益計101,002,544 2,602,715IV 経常外費用79,300	雑費	24,000		
その他経費計 管理費計 経常費用計 当期経常増減額380,510経常外収益 資倒引当金戻入 経常外収益計101,002,544 2,602,715IV 経常外費用79,300	貸倒繰入額(販)	61,900		
 管理費計 経常費用計 当期経常増減額	その他経費計			
経常費用計 当期経常増減額 Ⅲ 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 Ⅳ 経常外費用	管理費計		655,936	
当期経常増減額 Ⅲ 経常外収益 貸倒引当金戻入 経常外収益計 Ⅳ 経常外費用				101,002,544
貸倒引当金戻入79,300経常外収益計79,300IV 経常外費用				
経常外収益計 79,300 IV 経常外費用 79,300	Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計 79,300 IV 経常外費用 79,300	貸倒引当金戻入		79,300	
IV 経常外費用	経常外収益計			79,300
				·
	固定資産除却損		0	
経常外費用計 0				0
税引前当期正味財産増減額 2,682,015				2,682,015
法人税・住民税および事業税 1,168,200				· · ·
当期正味財産増減額 1,513,815				
前期繰越正味財産額 49,426,956				
次期繰越正味財産額 50,940,771				

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法 棚卸資産の評価基準は、原価基準により評価方法は最終仕入原価法によっています。
- (2) 固定資産の減価償却の方法 有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。
- (3) 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物付属設備	1,433,925	0	0	1,433,925	△ 301,414	1,132,511
工具器具備品	1,972,279	267,522	0	2,239,801	△ 1,814,377	425,424
無形固定資産						
ソフトウェア	1,162,350		0	1,162,350	△ 459,316	703,034
合 計	4,568,554	267,522	0	4,836,076	△ 2,575,107	2,260,969

法人名: 認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

貸借対照表

2022 年 3月 31 日現在

(単位:円)

	A 目			 額	(単位:円)
Т	資産の部		715'	11)-1	
1	1. 流動資産				
	現金預金	49,790,226			
	未収金	10,671,067			
	貸倒引当金	$\triangle 61,900$			
	棚卸資産	302,477			
	前払費用 仮払金	220,054			
	(双)	0		CO 001 004	
				60,921,924	
	2. 固定資産 (1) 本形田京次辛				
	(1)有形固定資産	1 100 511			
	建物付属設備	1,132,511			
	工具器具備品	425,424	-		
	有形固定資産計	1,557,935			
	(2)無形固定資産	500.004			
	ソフトウェア	703,034			
	有形固定資産計	703,034			
	(2)投資その他の資産	000 405			
	敷金	902,497			
	長期前払費用	208,088			
	投資その他の資産計	1,110,585			
	固定資産合計			3,371,554	24 202 452
l_	資産合計				64,293,478
ПП	負債の部				
	1. 流動負債				
	未払金	7,105,947			
	未払費用	3,375,416			
	預り金	306,944			
	前受金	0			
	未払法人税等	1,168,200			
	未払消費税等	1,396,200		10.050.50	
	流動負債合計			13,352,707	
	2. 固定負債				
	固定負債合計			0	
_	負債合計				13,352,707
Ш	正味財産の部				
	前期繰越正味財産			49,426,956	
	当期正味財産増減額			1,513,815	
	正味財産合計				50,940,771
	負債及び正味財産合計				64,293,478

法人名: 認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

<u>財産目録</u> 2022 年 3月 31 ^{申興在}

(単位・円)

			(単位:円)
<u> </u>		金額	
I資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
にし区市民活動支援センター小口現金	32,672		
その他小口現金	35,600		
横浜銀行普通預金(共通通帳)	1,444,014		
横浜銀行普通預金(支援センター通帳)	10,947,396		
横浜銀行普通預金(第一通帳)	22,310,388		
横浜銀行普通預金(にし区支援C通帳)	2,598,024		
横浜銀行普通預金(AED事業用通帳)	1,000		
ゆうちょ銀行(会費等振替口座)	2,418,917		
横浜銀行定期預金	10,002,215		
現金預金計	49,790,226		
未収入金			
横浜市 認知症サポーターキャラバン事業事務局委託費	2,942,500		
NTTドコモ まちかどケアアプリ・サイト活用共同事業負担金	2,200,000		
横浜市 神奈川区地域づくり大学校横浜市負担金	1,228,622		
横浜市都市整備局 まち普請事業運営費用	1,177,000		
横浜市 市民公益活動緊急サポート事業委託費	679,800		
横浜市 泉区まちづくりみらい塾事業負担金	654,885		
屛風ヶ浦保育園 第三者評価評価費用	594,000		
横浜市 空家等対策に関する地域活用支援業務委託費	549,010		
横浜市 NPO組織基盤強化ワークショップ。事業費用	300,000		
横浜市泉区 医療介護事業所向けICT活用推進事業委託費	296,450		
横浜市ファント・レイシングが研修謝金	33,000		
みやぎ連携復興センター 被災地支援・復興活動検証コメント執筆料	8,800		
横浜市社協 福祉よこはま編集委員謝金	5,000		
ソフロロジテラピーケ 活動実践者相談費用	2,000		
未収入金計	10,671,067		
貸倒引当金	-61,900		
商品	01,000		
書籍在庫	43,100		
貯蔵品	10,100		
災害時用備蓄品	123,837		
サイトアプリ事業マンカ、版リーフレット	135,540		
貯蔵品計	259,377		
前払費用	200,011		
コーケンキャピタルビル 4月分家賃	219,054		
西区施設賠償保険料	1,000		
前払費用計	220,054		
流動資産合計	220,004	60,921,924	
2. 固定資産		00,021,021	
建物附属設備			
是物的	1,132,511		
工具器具備品	1,102,011		
法人事務所デーブル及び椅子	425,424		
ソフトウエア	720,424		
助成金受付・管理システム構築費	703,034		
- 動成金叉竹・音座/^/A構楽員 - 敷金	100,004		
	002 407		
リストインターナショナルリアルティ 敷金	902,497		

長期前払費用		
リストインターナショナルリアルティ 敷金償却分	67,535	

科目		金額	
リストインターナショナルリアルティ 礼金	67,535		
エルス・サポート 保証委託料	73,018		
長期前払費用計	208,088		
固定資産合計		3,371,554	
資産合計			64,293,478
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
関内イノペーションイニシアティプ推進センター共同事業体運営事業費	1,958,000		
社会保険料3月分·期末賞与分、労働保険料R3年度分精算不足金	1,344,754		
関内イノベーションイニシアティブ、推進センターサ小改修・保守費	1,760,000		
協進印刷 NPO設立パンフレット制作代	577,500		
NTT電話代、ソフトハンク携帯電話代3月分	42,337		
ミライト・テクノロシース、、NTT WiFi・インターネット利用料3月分	68,211		
ヤマト運輸、日本郵便 郵送料3月分	12,628		
八雲堂、富士ゼロックス、大塚商会印刷機費用	59,886		
アスクル、ユニマット、アト゛ビシステムズ消耗品費用	132,801		
山陽紙業、カンキョーワークス 産業廃棄物処理費用3月末請求分	3,045		
謝金10件(労務セミナー、第三者評価費用、協働コーディネーター費用)	791,384		
板倉税理士顧問料3月分	44,000		
amazon 消耗品3月分	30,446		
VISAカード利用料3月分	172,904		
神奈川県予防医学協会健康診断料2,3月分	94,976		
NextPower 法人事務所電気代3月分	13,075		
未払金計	7,105,947		
未払費用			
3月分給与,立替精算金	3,375,416		
預り金			
3月分給与·決算賞与分 源泉所得税	156,644		
住民税	150,300		
預り金計	306,944		
未払法人税等	1,168,200		
未払消費税等	1,396,200	10.050.505	
流動負債合計		13,352,707	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	10.050.505
負債合計			13,352,707
正味財産			50,940,771